特定非営利活動法人
ぷれいす東京
TOKYO

2021年度
年間活動報告書

目次

1. ご挨拶

新型コロナウイルス感染ありきのHIV/エイズの取り組み 2

2. sakuraこと桜井啓介さんを偲んで 3

3. 部門報告

事務・総務 4

ホットライン 13

Sexual Health Project 23

Gay Friends for AIDS 25

ネスト 29

バディ 41

HIV陽性者と判定保留/確認検査待ちの人、その周囲の人への相談サービス 45

研究・研修 53

新型コロナウイルス感染ありきのHIV/エイズの取り組み

認定NPO法人ぷれいす東京　代表　生島 嗣

新型コロナウイルスの流行が始まり、2年が経過した。この間、地域の保健所で提供されている無料のHIV検査数は大きく減少した。全国保健所の感染症担当の皆さんは、HIVと新型コロナウイルス対応を同時にするか否かで難しい選択を迫られていたはずだ。東京地区では、東京都新宿東口検査・相談室（旧：南新宿）はコロナ禍でも一度も休まずに検査サービスを提供し続けている。この「プロフェッショナルな取り組み」はもっとメディアで取り上げていただいても良いのではないかと思う。

ぷれいす東京が担当するエイズに関する電話相談にも「自分の住んでいる地域では、保健所による検査は中止されているのだが、どうしたら良いか」という相談が寄せられたりしている。今後は、より簡易な郵送検査の導入が望まれるが、陽性の可能性がある人たちへのサービス低下があってはならない。

この2年間、我らが電話相談スタッフたちは1日も休むことなく、ぷれいす東京事務所に通い続け、電話を介してHIV/エイズに関連した不安の声に耳を傾け、情報提供をし続けている。本当に「ありがとう」と伝えたい。

HIV陽性者や周囲の人向けの電話相談は相談数に大きな変化はないが、対面相談は大きく減少した。そんななかでも、対面相談の中で感じているニーズが2つある。1つはメンタル面、薬物使用に関する相談が一定の割合であり続けていること。もう一つは滞日の外国籍の方からの相談アクセスが増えていることだ。内容は、海外から日本への移住、あるいは、国内に定住する外国籍のHIV陽性者からの、日本のHIV診療、福祉制度へのアクセスに関する相談だ。新型コロナウイルス流行の影響で、母国に戻り、無料の抗HIV薬を入手するということが簡単にできなくなったのだ。たぶん以前からあった課題なのだが、コロナ禍で初めて実感しているのだ。

ネスト・プログラムでは、以前は対面で開催していたミーティングを全てオンライン化した。そのために、参加を見合わせる以前の参加者がいる一方、遠方の在住者で、以前からネストのミーティングに興味を持っていた人たちにとっては、オンライン化で参加の道が開かれたことは朗報だと感じているようだ。ただし、オンラインの経験が乏しい人のなかには、スマホを使って参加にチャレンジする人もいるが、上手くいかない場合などにヘルプの連絡があれば、スタッフたちが参加をサポートしている。

最近、クロスボーダー＋ミーティングという新しいミーティングが立ちあがった。ぷれいす東京のwebコンテンツ「陽性者と家族の日記」のライターたちのオンライン・ミーティングのなかで、提案されたアイデアを具体化したものだ。HIV感染により、海外で働きたいという選択肢を諦めてしまう人は少なくないが、その選択でよかったのかを自由に話し合える場を作りたいというものだ。スタートしてみると、既にイギリスで暮らす日記ライター「ひろき」さんが参加してくれていたことが追い風となり、他の海外で暮らす参加者も増えてきた。日本から海外に移住するかどうかを悩む人たちがこのミーティングに参加することで、実際に国境を超え生活する人たちの情報交換が可能になったのだ。コロナ禍で生まれたこのミーティングは予想以上に盛り上がっている。

国際的なネットワークと言えば、3月7日に逝去された長谷川博史さんのことを思い出す。私は、1994年の横浜で開催された国際エイズ会議で初めて出会ったのだが、本当に長いお付き合いとなった。距離があった時期もあるが、長谷川さんがJaNP＋を立ち上げてからは、活動家仲間としての交流になった。2002年4月、神戸会議のために、性感染の人たちも含めた当事者のネットワークを立ち上げようと声あげたのだ。日本記者クラブでの会見で、「病気であることを周囲に話せず、孤立してしまうことが一番の問題」と話していた。

さらに長谷川さんは、APN＋（アジアのHIV陽性者のネットワーク）の日本代表という活動を通してアジアとのネットワークを持っていた。私も、クライアントの台湾人HIV陽性者の支援をきっかけに、2012年頃からアジアとのネットワーク構築のためプライベートで台湾や韓国と行き来しつつ、ネットワークを広げていた。しかし、相談の中で、情報がないアジアの国々の情報が必要になる時には長谷川さんに相談し、情報を得ることが多々あった。

この東京で、HIV陽性をめぐる当事者団体、予防啓発をする団体、支援団体、研究者の連携は、長谷川さんと共に築いてきた感がある。長谷川さんは、こうした連携があってこそ、対策がうまくいくのだということを発言し続けてくれた。

新型コロナウイルスとともに生きる社会で、私たちはオンラインを通して、これまでのネットワークに加えて、新たな繋がりを構築しつつあるのかもしれない。東京と地方都市、国内と海外など、新しいテクノロジーを活用しながら新たな支援ネットワークを築きつつあるのかもしれない。少ない人員と限りある予算で、スタッフたち、サポーターの皆様とともに、目の前にある課題について一つ一つ、できる範囲で取り組んで行きたいと願っている。

sakuraこと桜井啓介さんを偲んで

2021年4月26日(月)にsakuraこと桜井啓介さんが急逝されました。4月30日、お兄様に見送られ、荼毘に付されたそうです。あまりに突然すぎるお別れでしたが、彼の多大な功績に感謝をするとともに、心よりご冥福をお祈りします。

sakuraさんは長年、ぷれいす東京のGay Friends for AIDSコーディネーター、web NEST運営委員として活躍してくれました。2021年までの東京レインボープライド、TOKYO AIDS WEEKSなどでは、sakuraさんが中心になって、パレード隊列のことやぷれいす東京のブース設営や運営、Gay Men's Chorusの会場運営などをやっていました。2021年の東京レインボープライドでの、ヴィーブヘルスケアによるバーチャルパレードがぷれいす東京での最後の仕事となりました。

ぷれいす東京では、2021年5月22日（土）に「sakuraこと桜井啓介さんを偲ぶ会」をYouTubeのライブ配信で開催しました。ぷれいす東京のスタッフ、JaNP+（日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス）、AMCOP（患者協働の医療を推進する会）のみなさまなど、13名の方にスピーチをしていただき、最後にお兄さまに電話でご挨拶をしていただきました。370回の視聴がありました。

事前に27名の方からいただいたテキスト・メッセージは、偲ぶ会の後にYouTubeに公開して、273回の視聴がありました。

テキスト・メッセージは「『sakuraこと桜井啓介さんを偲ぶ会』ご報告と御礼（https://ptokyo.org/news/13704)」よりご覧いただけます。

桜井啓介さんのぷれいす東京での歩み

2005年9月
　ボランティアとして登録、Gay Friends for AIDSで活動

2007年
　Gay Friends for AIDSのコーディネーターに着任

2008年4月～2015年2月
　web NEST運営委員(リンク集担当)

2013年～
　TRPブース出展などで活躍

2015年～2020年12月
　TOKYO AIDS WEEKSスタッフ

2021年4月26日　逝去（享年49歳）

また、JaNP＋（日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス）、ヒューマンライブラリーでのスピーカー活動、AMCOP（患者協働の医療を推進する会）の活動にも積極的に参加していました。以前からよく知っていたものもありますが、昨年のお別れの際に知ったものもありました。

桜井啓介さんが残したもの、大切にしてきたものをスタッフ一同で引き継いで、これからも活動に取り組んでいきたいと思います。

（文責：生島 嗣）

TRPバーチャルパレード2021の様子(2021年4月25日)

・ヴィーブヘルスケアによるバーチャルパレードの様子。
　先導隊長はsakuraさんです。
　https://www.youtube.com/watch?v=KiSbQiGZR_I

このページをオンラインでご覧になるには以下のQRコードからアクセスしてください。

イベント報告

・2021年3月4日掲載
　世界エイズデー展 in PRIDE HOUSE TOKYO」報告
　https://ptokyo.org/activities/data/13497

・2018年8月4日掲載
　Rainbow Health Talk 2018 報告
　https://ptokyo.org/activities/data/10069

web NEST

・運営委員のつぶやき sakura（2008年3月～2015年5月）
　https://ptokyo.org/nest/words/author/sakura

個人アカウント

・Twitter　@Hige_to_Horn

1. 2021年度のハイライト

●コロナ禍での新境地

・ネスト・プログラム--「専門家と話そう」ウェビナーと「クロスボーダー＋ミーティング」

加藤 力也

2020年より続くCOVID-19の影響により、ネスト・プログラムはほぼ全てオンライン開催へと移行した。

そのような状況の中で、HIVと新型コロナワクチンとの関連について興味を持つ陽性者が多いことから、2021年7月14日にJ-AIDS管理人であり医師の高田昇さんを講師にお迎えし「感染症の専門家と話そう」をZOOMウェビナー形式にて開催した。ウェビナーでは参加者同士の顔は見えないが、出演者への質問・コメントなどは可能で、こうした講義型のプログラムに適していることから導入した。プログラム内ではワクチンの有効性や副作用など数々の疑問にもお答え頂き、参加者にとって非常に役立つ内容となった。さらに2022年2月16日にはHIV陽性者だけではなくパートナーや家族など興味を持つ方に対象を広げ、今度はYouTubeによる動画配信形式によりパート2を開催し、終了後に一般に公開した。

また海外生活に興味を持っていたり、実際に海外在住の方を含めた「クロスボーダー＋ミーティング」を新たに開設した。初回から多くの陽性者のアクセスがあり、関心の高さが伺われた。このミーティングは隔月で開催し、貴重な情報交換の場となっている。

・スタッフがWeb上でトーク--「TOKYO AIDS WEEKSについて語ろう」

生島 嗣

TOKYO AIDS WEEKS 2021ではSH（セクシュアル・ヘルス）プロジェクトのメンバーたちが、オンラインで登場して、今年のTOKYO AIDS WEEKSのプログラムについてYouTubeライブで自由に語ってみました。合計で3回の配信で、スタッフがのべ12人参加してくれました。また、コメントを書くという形で参加したスタッフたちもいました。様々な背景を持つスタッフ一人一人がプログラムの企画を見て感じること、実際参加してみての感想を、自由なトークを通してオンラインで共有していくのは、これはこれで、可能性のあるやり方の一つだなと実感しました。次はあなたも参加してください。（P.23参照）

・オンラインでのインターン生受け入れ

加藤 力也、生島 嗣

2021年夏、NPO法人ドットジェイピーを通じて大学生のインターンを受け入れることになった。地方の大学に通う10代の女子学生で、海外の性教育からHIVに関心を持ったことが参加動機だった。

前年度のボランティア研修の動画を見てもらい、実際にぷれいす東京で活動をしているボランティア・スタッフ数人へのインタビュー動画を作成することになった。インターン生自身がインタビューしたい内容を考え、ぷれいす東京スタッフと共に司会進行を務める形で構成した。HIV支援活動に関する率直な質問が多く、HIVに馴染みのない様々な人にも興味を持ってもらえるような動画が完成した。

過去にもぷれいす東京では学生インターンを受け入れた例はあるが、活動を全てオンラインで行うというのは今回が初めてであった。実際に事務所に来所しなくても活動が可能であるということを証明したケースとなった。今後も機会があればインターンの受け入れを検討したい。

●「LGBTQ+ユースの性の健康メール相談」開設とセミナー開催

大槻 知子、生島 嗣

コロナ禍でより影響を受けていると考えられるユース層のLGBTQ+が、性に関する情報に触れたり、サポートを受けられる場所づくりのきっかけとなることを目的としてスタートした本企画。ぷれいす東京の相談窓口を拡充しメール相談を開設するとともに、「TOKYO AIDS WEEKS 2021」の中でトランスジェンダーの性の健康をテーマにしたオンライン・セミナーを開催し、居場所づくりなどの専門家や当事者、アライなど様々な立場の方の知見を共有いただいた。終了後動画を公開した。引き続き、他のコミュニティの支援者の方々とも協働しながら、支援の輪を広げていきたい。

■「LGBTQ+ユースの性の健康メール相談」
https://ptokyo.org/lgbtq/consult

■「LGBTQ+のセクシュアルヘルス・トーク＆勉強会
Vol. 1「トランスジェンダーと性の健康」
出演者（50 音順・敬称略）：
・池袋真（女性医療クリニック LUNA 婦人科、トランスジェンダー外来担当医）
・国見亮佑（にじいろほっかいどう事務局長）
・中里虎鉄（フォトグラファー、エディター）
・ラビアナ・ジョロー（性教育パフォーマー）

セミナーは、視聴者との Q&A セッションも盛り上がったので、ぜひアーカイブをご覧ください。
YouTube アーカイブ（字幕つき）：
https://youtu.be/xeo4luKIcOA

本企画に助成いただいた、ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループの皆様に感謝いたします。

●COVID 19 サバイバーズグループ東京
生島 嗣
本プロジェクトは、LGBT 法連合会「SOGI 差別根絶ファンド」の助成を受けて、ぷれいす東京、akta、アフリカ日本協議会の３者によるコラボ企画として実施しました。Twitter（@Cv19Sg）、東京レインボープライド 2021 オンラインブースなどを通して、協力者をリクルートし、新型コロナウイルスに罹患した LGBT 当事者たちの困難さ、体験談などを収集しました。貴重な結果は、YouTube で報告し、web サイトへまとめました。提言書（P.10 参照）も掲載したので、ぜひ、お目通しください。

2. ぷれいす東京について

○定例会議：事務局会議（毎月２回）、運営委員会（毎月１回）
理事会（随時）

○役員
理事：任期は２年で、2021 年度の理事は以下です。
・生島 嗣（代表を兼任）
・牧原 信也（運営委員長を兼任）
・池上 千寿子
・樽井 正義
・根岸 昌功
・兵藤 智佳
・山下 敏雅
・加藤 力也
・野坂 祐子
監事：常住 豊
○事務所スタッフ：フルタイム２名、パートタイム５名

○部門コーディネーター

〔ホットライン部門〕	阿曽、楊井、生島が中心となり共同で運営
〔Sexual Health Project〕	生島
〔Gay Friends for AIDS 部門〕	生島、阿曽
〔ネスト部門〕	加藤、原田
〔バディ部門〕	牧原
〔HIV 陽性者と周囲の人／確認検査待ちの人への相談サービス部門〕	生島、牧原
〔研究・研修部門〕	生島
〔事務・総務部門 経理担当〕	伊澤

○会員：251 名（うち正会員 61 名、活動会員 190 名）
○賛助会員：個人 57 名
団体７団体：医療法人社団七海会あおぞらクリニック、株式会社アルバコーポレーション、イプソスヘルスケアジャパンリミテッド、サーチコア株式会社、中村キース・ヘリング美術館、一般財団法人日本児童教育振興財団内日本性教育協会、momo 合同会社
（50 音順、敬称略）

●活動助成をいただいた団体
公益財団法人東京都福祉保健財団、LGBT 法連合会「SOGI 差別根絶ファンド」

●寄付をいただいた団体
ヴィーブヘルスケア株式会社、MSD 株式会社、
オフィス Two I、カトリック HIV/AIDS デスク、
ギリアド・サイエンシズ株式会社、
ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ
JAPAN COMMUNITY IMPACT、
中外製薬株式会社、日本聖公会東京教区、
株式会社ハナ・メディテック、北陸 HIV 情報センター
（50 音順、敬称略）

●募金箱・クラウドファンディングなどによるご寄付
株式会社サウザンブックス社、
中村キース・ヘリング美術館、News Café、
チャリボン（株式会社バリューブックス）（敬称略）

多くの個人の方からもご寄付をいただきました。お名前の掲載は控えさせていただきますが、心よりお礼申し上げます。

3. ぷれいす東京の日常活動

●受託事業

厚生労働省

・「HIV 陽性者等の HIV に関する相談・支援一式
（関東地域におけるピア・カウンセリング等支援事業）」

東京都

・東京都 HIV/ エイズ電話相談
・東京都 HIV 検査情報 Web の制作
（http://tokyo-kensa.jp/）
・東京都によるゲイ・メディアへの広告制作

研究班

・ check72 ～郵送 HIV 検査配布のための web の企画・制作
（エイズ対策政策研究事業「HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」（研究代表者：今村顕史 東京都立駒込病院　感染症センター長））

●他団体との協働プロジェクト

・TOKYO AIDS WEEKS 2021（下記参照）
・HIV/AIDS 啓発活動コンソーシアム「HIV/AIDS GAP6」
・Not Alone Cafe 東京
・LGBT 支援ハウス
・プライドハウス東京レガシー
・COIVID-19 サバイバーズグループ（P.5 参照）
・Living Together 計画
HIV のリアリティを伝えるプロジェクトを、akta とぷれいす東京が窓口になって行っています。

TOKYO AIDS WEEKS 2021（11 月 15 日～ 12 月 15 日）を開催し、オンライン・会場開催あわせて、のべ 27 のイベント・団体の参加がありました。ぷれいす東京の主催・共催イベントは、以下の通りでした。

＜ライブ配信＞

・12 月 5 日（日）「1543 人の HIV 陽性者の声」
報告：若林チヒロ（埼玉県立大学）
聞き手：加藤力也（ぷれいす東京）
・12 月 12 日（日）「1994 年 あの夏、横浜で」
トーク：池上千寿子（ぷれいす東京　前代表）
聞き手：生島嗣（ぷれいす東京　現代表）
・ 12 月 12 日（日）「北丸雄二さん＆ HIV 陽性者トーク」
ゲスト：北丸雄二（ジャーナリスト、コラムニスト）
聞き手：奥井裕斗（会社員）
・ 11 月 28 日（日）「LGBTQ+ のセクシュアルヘルス・トーク＆勉強会 Vol. 1」
ゲスト：池袋真さん（女性医療クリニック LUNA 婦人科、トランスジェンダー外来担当医）、国見亮佑さん（にじいろほっかいどう事務局長）、中里虎鉄さん（フォトグラファー、エディター）、ラビアナ・ジョローさん（性教育パフォーマー）（ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ後援）
・ 12 月 10 日(金)「PrEP の処方医、ハード系ポルノ男優と語る。～自分でできる新たな予防法『PrEP』」佐藤昭裕医師(KARADA 内科クリニック)、Yoshi Kawasaki さん(ハード系ポルノ男優)（HIV 感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制の整備に資する研究班（研究代表者：水島大輔）、ぷれいす東京企画・運営）

また、Gay Men’s Chorus は、2 年続けて休止となってしまったので、過去 5 年間のコンサートから何曲かをピックアップした動画を作成しました。

＜会場開催＆オンライン＞

・ 12 月 1 日（水）～ 12 月 15 日（水）世界エイズデー展「トランスジェンダー とセクシュアルヘルス（性の健康）」（プライドハウス東京ウェルネス・サポートチーム主催、NPO 法人 akta、ぷれいす東京共催）300 人弱のトランスジェンダーと性の健康に関する調査データによるパネルの制作、タイの Nittaya 医師のクリニックにおけるトランンスジェンダーの性の健康支援の取り組みについて動画の企画、制作などを手伝いました。

現在も YouTube でアーカイブ動画をご覧いただけるものが多数あります。各イベントの詳細については、TOKYO AIDS WEEKS 2021 開催リポート（https://aidsweeks.tokyo/news/591）をご覧ください。

TOKYO AIDS WEEKS 2021 開催にあたり、ヴィーブヘルスケア株式会社に協賛をいただきました。この場をお借りして、お礼を申し上げます。

YouTube「ぷれいす東京チャンネル」の登録をお願いします。

●ロビー活動

・要望書の提出

2021 年 5 月 27 日：

共同申し入れ賛同団体として厚生労働省に「薬物政策のあり方についての要望書」を提出。

2021 年 6 月 2 日：

「大麻使用罪創設に反対する依存症関連団体・支援者ネットワーク」の一員として、「声明：私たちは大麻使用罪の創設に反対します！」を発表するための記者会見に参加し、厚生労働省に書面を提出。

●外部委員会への参加

生島や池上らが、国や自治体などをはじめとする外部機関に HIV/ エイズ関係の委員として参加しています。

東京都内の医療機関などでは、行政や民間団体などと垣根を越えて連携し、HIV にどう向きあっていくのかを協議する場が設けられています。ぷれいす東京は、会議の場への参加のみにとどまらず、会議をきっかけとして保健所や医療機関からくる問い合わせや相談に対して積極的に協力しています。

- 厚生労働省エイズ動向委員会 委員
- 東京都エイズ専門家会議 委員
- 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者雇用サポーター
- 一般社団法人日本エイズ学会 理事（2021 年 11 月まで）
- 一般社団法人日本エイズ学会 監事
- 公益財団法人友愛福祉財団 理事
- 新宿区 HIV／AIDS 関係機関ネットワーク連絡会 委員
- 日本性教育協会運営委員会 副委員長
- 特定非営利活動法人エイズ & ソサエティ研究会議 副代表
- 葛飾区エイズ連絡会議 委員

●新規ボランティア研修会の実施

牧原 信也

毎年行っている新規ボランティアの研修を今年も行いました。今年も COVID-19 の流行を受け、新規ボランティアの募集とボランティア向け研修は、すべてリモートでの開催としました。説明会には 22 名が参加、別日程も含めて合計で 27 名の参加がありました。実際の研修は、二日間朝から夕方まで、19 名の参加希望があり、参加できない方は補講という形で、研修に参加いただきました。リモートになって 2 年目ということで、昨年より運営も多少は慣れたつもりでしたが、参加者の方々に助けられつつ、なんとか無事に開催することができました。みなさまお疲れさまでした。これから、ぷれいす東京の中で、それぞれの場を見つけて、ぜひ細く長く関わっていただければと思います。どうぞよろしくお願いします。

▼新規ボランティア説明会

9 月 11 日（土）10：00 ～ 12：00 ＋ 個別説明

ZOOM によるオンライン

参加者合計 27 名（個別も含む）

▼新規ボランティア研修会

9 月 23 日（木・祝）・26 日（日）　10：00 ～ 17：00

ZOOM によるオンライン

参加者合計 19 名

講義は、1 日 4 ～ 5 コマを 2 日間開催。

1 コマは 50 分～ 90 分、休憩 10 分。プログラムの内容は以下のとおり。

・9 月 23 日（木・祝）

1. 社会的な背景　池上 千寿子
2. 医学的基礎知識① HIVの基礎知識と検査法　福原 寿弥
3. 手記を読むワークショップ　生島 嗣・スタッフ
4. ネスト・プログラムの取り組み　加藤 力也
5. セクシュアリティの多様性について　大槻 知子

・9 月 26 日（日）

1. 医学的基礎知識② 性感染症の基礎知識　福原 寿弥
2. 制度や社会サービス　牧原 信也
3. セイファーセックス・リスクアセスメント　生島 嗣・スタッフ
4. 相手のある保健行動　生島 嗣・スタッフ

●Web サイトの運営

ぷれいす東京本体のほか、研究班関係、委託、コラボレーションで様々なサイトを運営しています。2021 年 12 月に、ぷれいす東京の「HIV/ エイズ よくある質問・みんなの回答集」に新たに「HIV への感染不安がある人からよくある質問とその回答」を公開しました。コンドーム関連、HIV 検査、オーラルセックス、初期症状などについて掲載しています。研究班では、「地域における HIV 陽性者等支援のためのウェブサイト」、「Stay Healthy and be HAPPY」、

「PrEP in JAPAN」でサイトを大幅リニューアルしました。ぜひご覧ください。YouTube「ぷれいす東京チャンネル」では10以上の動画を公開しました。また、ソーシャル・メディアも活用して、随時情報発信をしています。

ぷれいす東京関係

- ぷれいす東京オフィシャルサイト
  https://www.ptokyo.org/
- 私たちは、ぷれいす東京です。
  https://ptokyo.org/weare/
- “P-LATINO” Comece tirando dúvidas
  - つながることから始めよう！
  https://p-latino.ptokyo.org/
- Living with HIV
  ～身近な人からHIV陽性と伝えられたあなたへ～
  https://lwh.ptokyo.org/

研究班関係

- 地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト
  https://www.chiiki-shien.jp/
- Stay Healthy and be HAPPY！
  https://stayhealthy.tokyo/
- PrEP in JAPAN
  https://prep.ptokyo.org/
- BRTA JAPAN
  https://brta.jp/
- Love Life and Sexual Health（LASH）
  https://lash.online/

受託

- 東京都HIV検査情報Web　http://tokyo-kensa.jp/
- 性行為で感染する病気への対策してますか？
  https://shp.ptokyo.org/hepatitis/
- check72　https://check72.jp/

コラボレーション

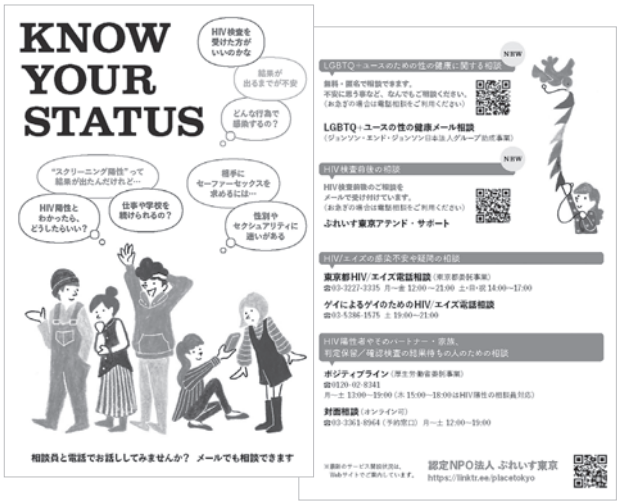
- TOKYO AIDS WEEKS　https://aidsweeks.tokyo/
- とも・ナビweb　～HIVで通院されている皆さまへ～
  https://www.janpplus.jp/tomonavi/
  （特定非営利活動法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラスとの共同プロジェクト）

Facebookは以下のページがあります。
URL https://www.facebook.com/ 省略
PLACETOKYO
ptokyoGF
LoveLifeAndSexHealth
UU_Japan-169773930400714（U=U_JAPAN）
updateHIV
TokyoAIDSweeks
そのほか、
Twitter（@placetokyo　ほか）
Instagram（@placetokyo）
YouTube「ぷれいす東京チャンネル」など
があります。

●冊子などの制作物

2021年6月に、ポルトガル語スペイン語によるLINE相談案内カードを作成しました。また、11月には、「LGBTQ+ユースのためのメール相談」案内フライヤーを作成しました（P.4参照）。

ポルトガル語スペイン語によるLINE相談案内カード



LGBTQ+メール相談ミニフライヤー

▼HIV陽性者の手記など「生の声」をまとめた冊子
・『Living with HIV　～身近な人からHIV陽性と伝えられたあなたへ～』

▼予防啓発活動を通じて生まれた冊子
・『Sexual Health Book ②』

▼肝炎の予防啓発のためのパンフレット
・『性行為で感染する病気への対策してますか？』（webにPDF、印刷版あり）
「HIV 検査の受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究」
（研究代表者：今村顕史（がん・感染症センター 都立駒込病院））からの依頼で制作。

●メディアへの協力

今年度もテレビ・ラジオ番組、新聞や雑誌、Webなど各種メディア（含むゲイ・メディア）からの取材などに協力・寄稿し、情報発信をサポートしました。また、研究成果や相談対応に基づく情報提供、可能な範囲でのHIV陽性者の紹介を行いました。事前に企画書を提出していただき、内容の妥当性や取材協力者のプライバシーへの配慮などを確認しています。

ビギナーズ鎌倉 （宮田一雄さんのブログ）	「ありがとう、幸せだった」　エイズと社会ウェブ版561	4月19日掲載
NHK Eテレ（取材協力）	バリバラ10年SP #2　自分らしさって？　多様な性と多様性	5月13日放送
BuzzFeed News	「刑罰でなく早期に親切な支援を」　大麻「使用罪」創設検討の厚労省に人権活動9団体が要望	5月27日掲載
NHK NEWS WEB	大麻「使用罪」検討 薬物依存症当事者の支援団体など反対声明	6月2日掲載
日テレNEWS24	「大麻使用罪」導入反対、立ち直りの機会を	6月2日掲載
BuzzFeed News	「厳罰化は効果なし」「世界の流れに逆行」 大麻「使用罪」の創設に依存症関連団体、支援者ネットワークが反対声明	6月2日掲載
ハフポスト日本版	「大麻使用罪」創設への反対、薬物依存症の当事者が訴える	6月2日掲載
g-lad xx	ぷれいす東京・生島さんへのインタビュー：「COVID-19サバイバーズ・グループ東京」について	8月28日掲載
スターチャンネル公式 Podcast	“IT’S A SIN PODCAST”　#5ゲスト：生島嗣	9月20日公開
newTOKYO	HIVポジティブへの偏見、無くすには？	10月8日掲載
サイゾー 2021年12月号	なぜ日本はPrEP承認が遅い？エイズ治療＆予防の社会課題	11月18日発行
ヨミドクター	HIV検査件数が激減　コロナ禍の余波で　12月1日は世界エイズデー	11月17日掲載
g-lad xx	特集：世界エイズデー関連キャンペーン2021	11月17日掲載
newTOKYO	知ろう、このタイミングに。世界エイズデーに合わせた26のイベントが開催 「TOKYO AIDS WEEKS 2021」が11月20日よりスタート！	11月19日掲載
GENXY	12/1は「世界エイズデー」。大小さまざまなイベントが目白押し！	11月24日掲載
東京新聞	「世界エイズデー」合わせ啓発催し　オンラインで情報発信	11月28日掲載
ヨミドクター	HIV陽性者1543人の声　古い知識による差別も…健康と生活に関する全国調査	12月8日掲載
TBS RADIO	HIV感染者の雇用問題	12月11日放送
月刊 厚生労働 2022年2月号	とびラボ企画： ～患者の声から学ぶ～差別や無理解を乗り越え“病と向き合い、生きること”を知りたい	2月1日発行
朝日新聞	医療から「取り残されやすい人々」コロナ禍　調査から見える実態	2月28日掲載
アンロミー！ （取材協力）	【PR】改めてHIVと真剣に向き合ってみよう。 MR GAY JAPANのHIROさんが、当事者の方に直々にインタビュー	2月13日掲載
g-lad xx	ぷれいす東京オンライン学習会「HIV陽性者と新型コロナワクチン～3回目接種をどう考えるか」	3月7日掲載

新型コロナへの検査・医療アクセス、人権の確立、差別禁止および当事者が主体的に参画する対策の実現に関する提言書

「COVID-19 サバイバーズ・グループ東京」では、新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」）を経験した LGBTIQ 当事者のためのオンライン交流会等を行い、その貴重な証言や意見、要望をまとめてきました。これまでに収集された証言や意見を踏まえ、新型コロナに関連して、LGBTIQ をはじめとする、個別的な配慮や施策の必要なコミュニティの人権の尊重や良質かつ適切な医療の提供を実現するための提言をまとめました。

１．新型コロナウイルス感染症対策における LGBTIQ への配慮と対応に関する提言

新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」）は、感染症予防法上、「新型インフルエンザ等感染症」に分類され、これに感染した人や、感染した人との接触等により感染している可能性がある人については、法律に基づき、一定の強制力を持つ措置の対象となることがあります。また、新型コロナが発症した場合には、入院が必要となることがあります。感染症予防法では、こうした場合、感染症予防法に定める患者等の人権の尊重や、良質かつ適切な医療の確保が必要であることが明記されています。これに基づき、保健医療、公衆衛生にあたる公共・民間の機関が、LGBTIQ に対して行うべき、必要な配慮および対応のあり方について提言します。

（１） 対応の準備のあり方

a）前提

今後の新型コロナの拡大や、新型コロナ以外の急性重症感染症の拡大の可能性に鑑み、保健医療、公衆衛生にあたる公共・民間の機関においては、各機関の管轄する地域において、LGBTIQ の住民が数多く存在することを改めて認識する必要があります。そのうえで、LGBTIQ の人権を尊重しながら公衆衛生上の措置を実施し、また、良質かつ適切な医療を提供できるようにするには何が必要かを、積極的に検討する必要があります。

b）地方自治体などでの計画立案における LGBTIQ の参画および研修の実施

新型コロナや新規の急性重症感染症等への対処に関する計画を立案する場合には、出来る限り、その立案段階で、LGBTIQ の当事者や関連する団体の参画を得て、必要な配慮や対応についての意見を聞き、計画に反映させる必要があります。また、実際に公衆衛生上の措置や医療の提供にあたる職員に対して、定期的に、LGBTIQ に関する研修を行う必要があります。

c）新型コロナに関わる政策の策定への LGBTIQ などの主体的参画

現在、政府の新型コロナに関わる政策や指針、基準作りなどについては、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づいて行われています。こうした政策等に、LGBTIQ をはじめとする、個別・追加施策を必要とする人口層・コミュニティへの配慮や対応事項を迅速かつ適切に反映するため、当事者団体や関連する専門家等が主体的に参画できる枠組みを、同法に定められた「新型インフルエンザ等対策推進会議」の中に設ける必要があります。

（２） 必要な配慮および対応の在り方

a）同性間のパートナー関係に関する配慮・対応の在り方

現在、多くの地方自治体において、同性間パートナーシップ制度が導入されていますが、こうした制度を利用している、して

いないに関わらず、地域の中で、同性のパートナーと同居していたり、何らかの形で生活を共に営んでいる住民が多く存在していることを認識する必要があります。新型コロナ等の感染症に関わる措置や医療提供を行う際に、対象となる人がLGBTIQ である可能性、同性パートナーを持っている可能性を常に念頭に置く必要があります。そのうえで、特に以下の事項について、特に本人および同性パートナーの存在に配慮した措置や医療提供の実施を行う必要があります。

◎ 積極的疫学調査（いわゆる接触者追跡・検査）について、感染した人の同性パートナーの存在について、常に念頭に置き、また、積極的疫学調査の実施に当たって、差別や偏見に基づいた言動・対応がないようにする。

◎ 感染した人の症状が悪化した場合等に、保健所等が連絡・調整を行う場合、また、入院などに関しては、同性パートナーに対して、異性間の婚姻や内縁等の関係にかかわる対応に準じた形で、連絡、意思確認や面会の機会の保証などを行うようにする。また、親族などとの関係で軋轢が生じた場合にも、本人と同性パートナーの関係および同性パートナーの権利を尊重する形で対応する。

◎ 海外から帰国する人の「宿泊施設への待機」措置や自宅待機措置に関しても、対象となる人に同性パートナーが存在する可能性を念頭におき、差別・偏見に基づいた言動・対応がないようにする。また、異性間の婚姻や内縁等の関係にかかわる対応に準じた形で、連絡・調整を行うようにする。

特に、実際に感染し、発症した人の場合、身体的にも苦しい状況にあること、また、その人のパートナーは、相手のことが心配で精神的に追い込まれた状況にあることなどについても配慮し、こうしたことにかかわる負担をなるべく軽減することが必要です。

b) トランスジェンダーに関する配慮や対応の在り方

地域には、多くのトランスジェンダーの住民も居住しています。その中には、戸籍の性別変更手続きを行った人も、行っていない人もいます。「性同一性障害者特例法」に基づく日本の性別変更手続きの要件は諸外国に比べて極端に厳しく、これに基づく性別変更は多くのトランスジェンダーにとって「狭き門」となっています。この点を含め、地域の中で新型コロナ等の感染症に関わる措置や医療提供を行う際に、対象となる人がトランスジェンダーである可能性を念頭に置き、差別や偏見が生じること、また、本人にとって不都合な自体が生じることがないようにする必要があります。特に以下のことに配慮する必要があります。

◎ 宿泊施設への待機や入院等に当たっては、トランスジェンダーの中で、戸籍の性別変更手続きを行っていない人についても、可能な限り、本人の性自認に基づく性別に基づいて処遇する。また、入院中の氏名の表示などについても、できるだけ、本人の意向を踏まえ、周囲の誤解や摩擦が生じないように対応する。

◎ 新型コロナ等の治療に際しての配慮も行う。トランスジェンダーの場合、ホルモン療法などを行っていて、新型コロナのワクチン接種や、治療薬の選択などに関して懸念がある場合がある。これらに関しては、本来、厚生労働省などが、当事者団体や、当事者とかかわりの深い専門家などと協力して、トランスジェンダーにおける医療とワクチン接種及びその副反応のリスク等について、諸外国における対応動向などを含めて調査し、取りまとめるなどして、本人の懸念や疑問、医療機関や保健所、地方自治体などからの問い合わせに応えられるようにする必要がある。

２．新型コロナに関わる他の疾病の検査・医療体制と LGBTQ の課題に関する提言

新型コロナの拡大による公衆衛生や医療のひっ迫により、他の疾病の検査・医療体制が大きな影響を受けています。また、新型コロナが新しい感染症であるため、調査研究や経験の蓄積が十分でなく、新規のワクチンや医薬品の副反応の問題を含め、LGBTIQ との関係でも懸念が生じています。これらについて、以下提言します。

（1） HIV/AIDS との関連

a) HIV 検査について

2020 年のコロナ「第 1 波」および「第 2 波」の時期、保健所の業務ひっ迫により、保健所で通常行われていた HIV の無料・匿名検査が行われなくなり、受検件数が大きく減少しました。可能な限り保健所での無料・匿名検査を継続していただくと同時に、今後もコロナの急増で保健所の業務がひっ迫する等の状況に備えて、代替的な HIV 検査の方法を確保し、検査機会ができるだけ失われないようにする必要があります。

b) 「基礎疾患」にかかるワクチン接種等の優先化について

2021 年に展開された新型コロナのワクチン接種について、基礎疾患のある人がワクチン接種を優先的に受けられることになりましたが、指定された 9 種の基礎疾患の中に、「疾患や治療に伴う免疫抑制状態」があり、この中に HIV 感染症が入っていました。その結果、HIV 陽性者はワクチン接種を優先的に受けられるようになりました。しかし、基礎疾患の名称などがどのように扱われるのかわからなかったり、病名などに関わるプライバシーを保てないのではないかとの懸念があり、また、特に職域接種などでは、職場で何らかの疑いをかけられるのではないかという懸念を持つ人もいました。結果として、優先的なワクチン接種の機会をあえて活用しないというケースが生じました。現在、徐々に展開が始まっている「第 3 回接種」についても、基礎疾患を有する人は、通常は 8 か月後以降に接種できるところ、6 か月後から接種できることになっています。こうした優先措置については、病名等のプライバシーの保護について十分な対策を講じるなどして、懸念を払しょくする必要があります。

（2） その他の疾病などとの関連

a) 医療ひっ迫の影響と LGBTQ

新型コロナ下での公衆衛生や医療のひっ迫による「受診控え」により、新型コロナ以外の感染症や非感染性疾患（生活習慣病等）の受診が遅れ、悪化してから受診するケースが多くなっています。また、新型コロナに関連して職場や地域社会でハラスメントにあったり、影響を受けてメンタルヘルスの状況が悪化するケースも増えています。こうした理由で医療機関を受診したり、公衆衛生に関わる措置の対象になる人の中にも、必ず LGBTQ の人々はいます。医療機関や公衆衛生機関においては、そのことを必ず念頭に置き、差別や偏見、人権侵害などが生じないようにする必要があります。

b) LGBTQ や HIV 陽性者とコロナ関連医薬品の副反応等との関係

前項でも触れましたが、トランスジェンダーでホルモン治療を受けている人や、HIV 治療や日和見感染症治療を受けている人、その他基礎疾患を持っている人が、新型コロナ・ワクチンや医薬品の副反応の可能性について懸念をもつ事例があります。実際に判断がつきにくいケースも多いところ、諸外国での事例やガイドライン、国内での類似事例などに関する情報を収集し、これらの懸念について、証拠とともに適切な判断ができるようにする必要があります。これらについては、当事者の団体や関係する専門家などと政府が連携して情報を収集し、証拠に基づく判断が可能になるように努力することと、得られた情報を適切な形で開示・普及することが必要です。

以上

部門報告（ホットライン）

1. 活動のあらまし

HIV/エイズに関して、不安や疑問がある人の相談を受けとり、情報を提供する場として、

＊「ぷれいす東京 HIV/エイズ電話相談」

＊「東京都 HIV/エイズ電話相談（平日 / 夜間 / 休日）」（東京都委託事業）

を運営している。

2. スタッフの構成（2022年3月現在）

・コーディネーター　0名
・世話人　5名
・スタッフ　29名（実働）

3. 活動内容

○「ぷれいす東京HIV/エイズ電話相談」

電話番号：03（3361）8909［1回線］
実施日：日曜日　14：00 ～ 17：00
今年度も新型コロナウイルス感染症により、1年を通して休止した。

○「東京都HIV/エイズ電話相談（平日/夜間/休日）」（東京都委託事業）

電話番号：03（3227）3335［2回線］
実施日：月～金曜日　12：00 ～ 21：00
（但し、祝日の場合は、14：00 ～ 17：00）
土 / 日曜日　14：00 ～ 17：00

○スタッフミーティング

毎月1回、第3日曜日　11：30 ～ 13：30
（2月からは 10：00 ～ 11：30）に開催。
合わせて、ケースカンファレンスや学習会を行っている。

○世話人会

部門内の調整・企画の場として有志により構成。ホットライン部門研修に携わっている。
第3日曜日に必要に応じてミーティングを開催。

○東京都HIV/エイズ電話相談連絡会

東京都エイズ対策係との二者による定例会議。
毎月第2金曜日に都庁にて開催している。

○東京都HIV/エイズ電話相談連絡会全体会

東京都エイズ対策係とぷれいす東京に係るスタッフで構成され、2012年度から始まった。年1回開催。

4. 2021年度の相談状況

1)「ぷれいす東京HIV/エイズ電話相談」

●相談実績報告(2021年4月1日～ 2022年3月31日)

新型コロナウイルスの緊急事態宣言などを受けて、去年の4/12から相談の休止を継続している。

年間活動日数	0日間
総相談時間数	0時間
活動スタッフ数	のべ0名
年間相談数	0件
	男性0件 女性0件 不明0件
	うち 陽性者0件
	確認検査待ち0件
	陽性者周囲0件
	確認検査待ち周囲0件

●相談件数〈ぷれいす東京〉

今年度の相談件数は、0件(昨年度:7件)だった。月平均/0件(同:7件)、1日平均/0件(同:7件)でした。過去の推移は、396件、515件、468件、7件、0件だった。

そのため毎年の報告項目の、「相談者の内訳・相談内容・相談時間・回線占有率・情報源・他県の割合・陽性者及びその周囲への対応」の報告とグラフは2021年度はありません。

2)「東京都HIV/エイズ電話相談(平日/夜間/休日)」(東京都委託事業)

●相談実績報告(2021年4月1日～ 2022年3月31日)

年間活動日数	359日間
総相談時間数	2,535時間/のべ5,070時間
活動スタッフ数	のべ1,703名
年間相談数	5,477件
	男性 4,467件 女性 1,004件
	不明 6件
	うち 陽性者 176件
	確認検査待ち 24件
	陽性者周囲 53件
	確認検査待ち周囲 8件

●月別相談件数〈東京都〉

今年度の相談件数は5,477件(昨年度:5,692件)で215件の減少だった。

●相談者の内訳〈東京都〉〔グラフ1〕

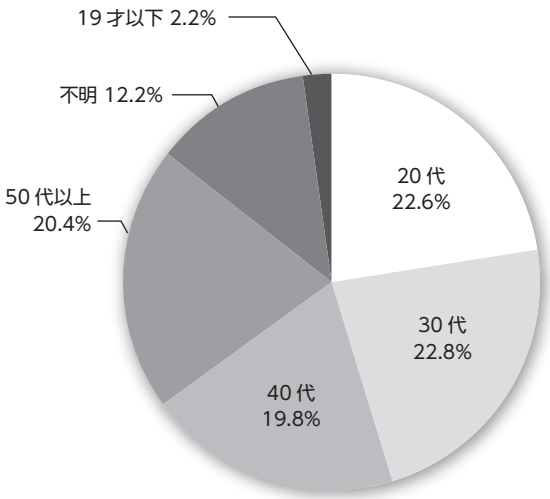
性別は、「男性」81.6%(昨年度:78.5%)、「女性」18.3%(同:21.4%)、「不明」0.1%(同:0.1%)だった。

今年度の割合は女性が若干減少した。

年代は、「30代」22.8%(同:25.1%)、「20代」が22.6%(同:23.8%)、「50代以上」20.4%(同:17.8%)、「40代」19.8%(同:18.1%)、「不明」は12.2%(同:12.1%)、「19才以下」2.2%(同:3.1%)の順だった。

「40代」⇄「50代以上」が入れ替わったが、大きな順位変動はなかった。

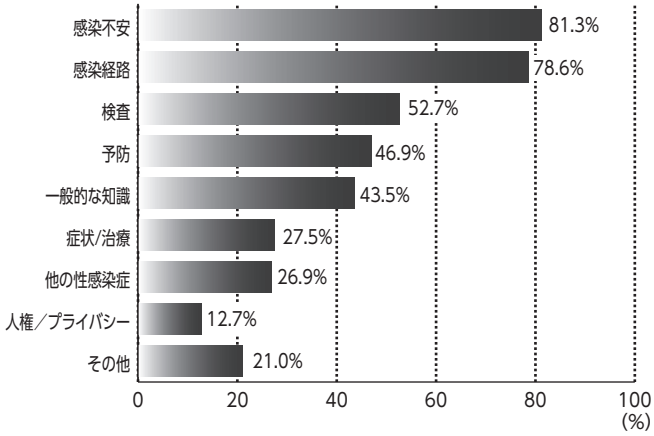
グラフ1 相談者の年代(東京都) n=5,477
2021年4月～2022年3月



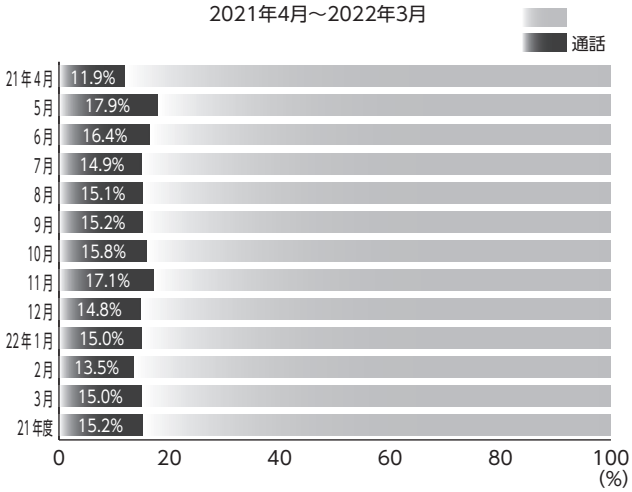
●相談内容(複数回答有)〈東京都〉〔グラフ2〕

今年度の相談内容の内訳は、「感染不安」が81.3%(昨年度:81.5%)で一番多かった。続いて「感染経路」が78.6%(同:77.2%)、「検査」が52.7%(同:53.2%)と続いた。「予防」46.9%(同:46.1%)、「一般的な知識」43.5%(同:46.0%)、「症状/治療」27.5%(同:30.9%)、「他の性感染症」26.9%(同:26.8%)、「その他」21.0%(同:25.0%)、「人権/プライバシー」12.7%(同:14.5%)という順位になった。

グラフ２　相談内容（東京都）＊複数回答あり
2021 年４月～2022 年３月



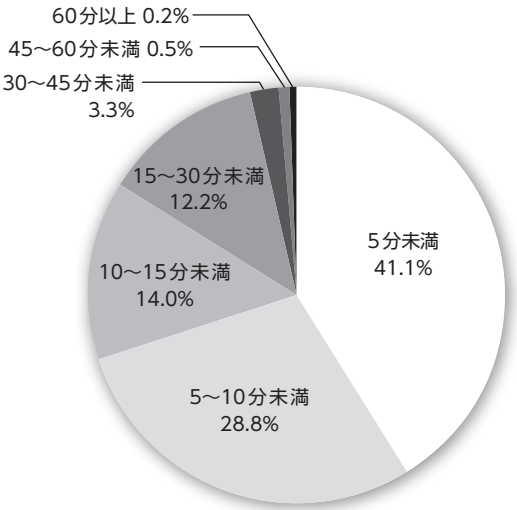
グラフ４　回線占有率（東京都）
2021年4月～2022年3月



●相談時間〈東京都〉〔グラフ３〕

10 分未満の相談は 69.9％（昨年度：63.9％）と半数以上を占めた。全体の 96.1％（同：93.4％）が 30 分以内に収まり、60 分以上の相談は 0.2％（同：0.3％）だった。昨年度とさほど変化はなかった。

グラフ３　相談時間（東京都）n=5,477
2021年4月～2022年3月



●回線占有率〈東京都〉〔グラフ４〕算出方法：総通話時間／総相談時間（超過は分母に加算）

今年度の回線占有率は全て 20％未満だった。

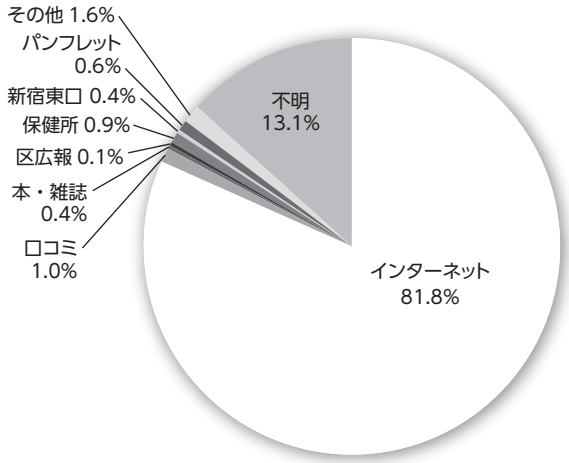
これは長期的なリピーターの相談が多くなり、どうしても相談時間が短くなってしまうからだろう。

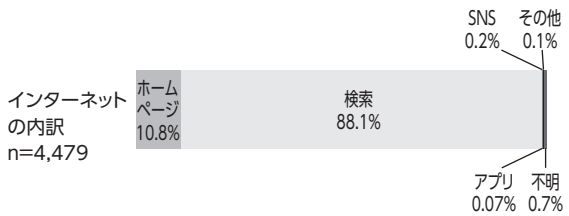
●情報源〈東京都〉〔グラフ５〕

「インターネット」は全体の 81.8％（昨年度：78.5％）だった。続いて「不明」13.1％、「その他」1.6％、「口コミ」1.0％、「保健所」0.9％、「パンフ」0.6％で、それ以外は 0.5％未満だった。

「インターネット」の 4,479 件の内訳は、「ホームページ」486 件（10.8％）、「検索」3,948 件（88.1％）、「不明」30 件（0.7％）、「その他」5 件（0.1％）、「SNS」7 件（0.2％）、「アプリ」３件（0.07％）だった。

グラフ５　情報源（東京都）n=5,477
2021 年４月～2022 年３月





2)「東京都HIV/エイズ電話相談(平日/夜間/休日)」(東京都委託事業)

●他県割合〈東京都〉

東京都外からの相談は2,959件(昨年度:3,439件)で、全体の54.0%(同:60.4%)を占めた。昨年度より6%減少した。減少はしたが地方からの相談は半数を超えてはいる。

●陽性者及びその周囲への対応〈東京都〉

HIV陽性者からの相談は176件(昨年度:271件)で、95件減少した。確認検査待ちは24件(同:40件)、陽性者周囲の相談は53件(同:69件)、確認検査待ち周囲の相談は8件(同:4件)だった。東京都の相談における陽性者等の相談率は、4.8%(同:6.7%)だった。去年は大幅に増えた相談が、今年は確認検査待ち周囲の相談のみ増えて、他は減少してしまった。

3) 相談全体のまとめ(東京都)

①東京都HIV/エイズ電話相談の平日のシフトが始まる

東京都の5年間の数字は、2,230件、2,679件、3,472件、5,692件、5,477件と、一昨年1/20から平日のシフトが増えたが件数はかなり減少した。まだコロナ感染症が影響しているのかもしれない。

相談員数は、昨年度が1,723名だったが、今年度は1,703名となった。シフト運営のための相談員のやりくりは今まで以上に大変である。一人当たりのシフトへの参加回数が増加したり、6時間以上の長時間にわたり相談を受けることになるので、相談員の心のケアに力を入れる必要が出てきている。

更に去年からのコロナ感染症による密を避けるため2名体制でのシフトを行ってきて、一人当たりの参加回数がさらに増加したり、心の負担も増してきていると思います。

②リピーターの相談

今年度のリピーターの件数は3,268件(59.66%)で、昨年度は3,328件(58.47%)だったので件数は減ったが、割合は少しだが増えている。いずれにしろ相談の過半数を占めている。

今年度もリピーターが存在したが、特徴は大きく二分される。一つ目はもう何年も、人によっては10年単位でかけてきている長期的リピーターで、その多くは日常接触や接触すらしていないことで不安になり、細かく何度も確認をしてくる。もう一つは、一定の期間だけかけてくるリピーターで、多くは性的接触などの具体的な心配事があり、検査結果を受け取るまで続く。しかし中には、陰性の結果が信じられず、相談が続く場合もあった。

③新型コロナウイルスの影響

2021年も新型コロナウイルス感染症に振り回された1年でした。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令されるたびに、シフトに入るスタッフが来れるのかとか、コロナに感染したり、濃厚接触者になりシフトを休まざるをえなくなり、新たにシフトに入れるスタッフを探さなくてはいけなかったり、と頭を悩まされました。

まだ収束までには時間がかかりそうなので、今後の動向に注意する必要があるだろう。

④陽性者などの相談

東京都のHIV/エイズ電話相談に寄せられた、HIV陽性者・確認検査待ちとその周囲の人たちからの

相談をまとめた。

□陽性者(176件)

1)陽性者のリピーター(119件/陽性者の67.6%)

※男性:119件/30代:25件、40代:79件、60代:15件/東京:29件、他県90件

・年間の相談回数が、昨年度100回以上かけてきたリピーターがかなり減ったためで、昨年度より86件の減少だった。
・トピック的な相談がある場合もあるが、多くは日常に起きた出来事に関する相談だった。
・HIV以外の課題を抱えている相談者もおり、対応は慎重にしなければならない。

2)感染後6ヶ月以内の陽性者(12件/陽性者の6.8%)

※男性:12件、女性:0件/10代:1件、30代:2件、40代:5件、不明:4件/東京:7件、他県:5件

全て告知直後の漠然とした不安の他に、

・治療費、服薬などについての心配。(6件)
・薬を飲み始めたが症状が良くならない。(2件)
・家族・パートナーに告知しないといけないか、家族・パートナーにうつさないか。

・告知された病院では拠点病院の案内がなく、自分で調べてくれと言われた。
・病院の面談の時ソーシャルワーカーから「知識があるのに危ないことをしたんですね」と言われ、不愉快になった。

3)感染後6ヶ月以上と長期療養中の陽性者(45件／陽性者の25.6%)
※男性：43件／20代：5件、30代：14件、40代：71件、50代以上：7件、不明：12件／東京…20件、他県…12件、海外…1件、不明…12件

[緊急や困難な事例]
・HIVに感染していることが分かった。誰から感染したのか相手は分かっている。この場合相手を訴えて医療費の請求など出来るか？裁判で訴えるような事例はありますか。
・5年前に夫よりHIV感染し、今は限界値以下で暮らしている。夫とは離婚する予定。今後お付き合いをする人に自分がHIV陽性者と伝えた方が良いのだろうか。夫から感染したときに弁護士に夫がHIV感染を知っていて自分に感染させた場合は夫が加害者で自分が被害者になると言われた。今は”U＝U”でありその点も法律がアップデート出来ているのかを含めて知りたい。

[専門的知識が必要な事例]
・歯科を紹介して欲しい。
・薬を飲み忘れる。(2件)
・確定申告について。
・近々海外勤務になりそう。現地での医療費や薬代がいくらかかるか教えて欲しい。
・外国人。新型コロナウイルスのことで、母国での薬調達ができなくなった。
・転職の相談。(2件)
・転院の相談。(2件)
・社会保険についての質問。

[プライバシー関連]
・歯科や他科診療で陽性と分かった途端に診療拒否された。(2件)
・コロナワクチンを打つ時に、薬などを根掘り葉掘り聞かれた。(2件)

[その他]
・コロナウイルスやワクチンについて。(6件)
・日常の報告。
・梅毒の相談。
・何かあった時のためにいろいろと情報を得たい。
・ぷれいす東京という団体について。

□確認検査待ちの相談(24件)
※男性：22件、女性：2件／10代：1件、20代：5件、30代：10件、40代：1件、50代以上：4件、不明：3件
東京…5件、他県…18件、不明…1件

[術前検査]
・今さっき陽性と言われたんですけど…。どうしたらいいか分からなくて…。実は明後日手術で、術前に検査したら陽性になった。先生からは「うちでは手術出来ない」と言われた。検査はスクリーニング検査だったが、先生からは検査についてや、その後の説明は何もなかった。が、結果用紙には「確認検査が必要」と書いてあった。この手術は会社の労災でする事になったので、どうして中止になったのか、HIV陽性という事を言わないとダメなのか。
・ヘルニアの手術することになり、術前検査をしたらHIVが引っかかった。その病院から詳しい検査をしないといけないと言われ、結果が出るまで2週間かかると言われ、その時には先生にいろいろと聞くことが出来なかった。
・術前検査でHIVの疑いがあると言われた。顔の腫瘍を取る手術だった。今日手術をして確認検査も一緒にした。1週間後に抜糸と共に結果が出る。これまで同性とオーラルセックスは何度かあった。手術と検査は市民病院で受けた。(2回)

[自主検査]
・予防のない性行為をしたので検査をしたら確認検査待ちとなった。(12件)
・予防のない性行為をして症状が出たので検査をしたら確認検査待ちとなった。(3件)
・性行為の相手から梅毒になったので梅毒の検査を受けてと言われ、受けたら陰性だったがついでに受けたHIVの検査が確認検査待ちとなった。(3件)
・先日即日検査を受けたら判定保留になってしまった。今まではキスぐらいで性行為自体は全くしたことがない。キスでも感染しますか。今度の日曜日に結果が出る。

[郵送検査]
・コンドームを使わない挿入行為があった。2ヶ月経って郵送の検査キットで検査したら陽性だった。2ヶ月前の事だけではなくコンドームを使わない行為は複数回あった。確認検査は結果が早く分かった方がいい。
・先月11月半ばに保健所で即日検査、陰性。12月に入って郵送検査したら陽性になり、要確認検査になった。一緒に梅毒検査をしたら陰性。実は相手の人が梅毒に

なって、自分も梅毒に感染したんじゃないかと思ったのに、梅毒は陰性でHIVの方が引っかかった。これはどういうこと？

［その他］

・2年前にコンドーム有の挿入、フェラチオとクンニリングスをした。最近ネットでHIVの記事を見て心配になって、直ぐに検査したく探したけど公の所はなかった。東京のクリニックに行き、即日検査をしたら確認検査が必要と言われ、また血液を2本取られた。検査キットの細長い紙を2枚見せてもらったけど、自分には赤い線が上の1本しか見えなかった。確認検査と言われてびっくりして倒れそうになった。先生が1週間後に来て下さいと言われた。1回目5,000円、確認検査に2万円以上払った。自分としては納得がいかないので直ぐに即日検査を受けたい。心配でたまらない。
・妊婦検診。

□陽性者周囲の相談（53件）

※男性：38件、女性：15件／10代：1件、20代：7件、30代：20件、40代：3件、50代以上：7件、不明：15件
東京：17件、他県：32件、海外：2件、不明：2件

・（パートナー）以前から付き合っていた人から7/2に陽性と言われた。その人と6/10にコンドームなしの挿入をした。6週間後に東口検査相談室で検査陰性。少しは安心しても良いでしょうか。（パートナーから似たような相談他に8件）
・（セックス相手）2日前に陽性者の方とオーラルセックスをした。フェラチオをした。口の中には射精はなかった。先走りがあったかなかったか。クンニリングスをされた。すぐに何かしたほうがいいか。これから長く付き合う場合はどのようにすればよいか。（セックス相手から似たような相談他に7件）
・（会社の同僚）検査の基準は2か月以上と3か月以上の場合ではどう違うのか？鍼灸院で働いている鍼灸の最中に出血した方がいて、その方がHIV陽性だと分かり、その人の施術に関わった人は全員検査を受けようと言う話になっている。その人の口の中を見せてもらったけど、出血は見られなかった。（会社関係から似たような相談他に7件）
・（身内）30代の甥っ子が発熱・下痢・身体の衰弱などで1週間前入院した。エイズを発症しての入院したみたいで、もっと詳しい病院に転院予定。保険のおばさんと入院手続きをしないといけないが、そこには病名を書かないといけないがHIVなんて書いたら、口が軽い人なので近所などに広まったらどうしよう、と心配している。甥っ子の両親はいきなりのことなのでショックを受けている。（身内から似たような相談他に2件）
・（友人）20代の陽性者の友人がおり、あか切れしやすく血が滲んだりするが、絆創膏は付けたくないようで、服や物に血が滲んだ手で触る。その際アルコール消毒は有効か。また本人に虫歯があり出血もあるかもしれないが、一緒に食事をしても大丈夫か。（友人知人から似たような相談他に13件）
・（医療関係者）介護施設でエイズの患者さんの面倒を見てる。お茶しに行って患者さんの飲み残しのジュースを飲んだ。後で考えたら自分はインプラントの治療中で、自分の口の中が傷になっているかもしれない。大丈夫か。生理の時にパットを替えたりする。今はコロナのことがあるのでビニール手袋はしている。もし手に傷があっても感染はしませんか。HIVの検査を定期的にしなくて大丈夫ですか。安心しました。また心配になりましたらお電話します。（医療関係者から似たような相談他に6件）

□確認検査待ち周囲の相談（8件）

※男性：2件、女性：6件／20代：3件、30代：1件、50代：1件、不明：3件
東京…1件、他県…4件、不明…2件

・（職場の同僚）医療従事者。職場の職員（30代）が11:45ごろに針刺し事故を起こした。14:00過ぎに職場のクリニックで迅速検査を受けて、抗原が陽性、抗体が陰性だった。中和する治療が必要か。針刺しの原因となった患者さんも検査して陽性であれば、その人にも中和する治療が必要か。職員本人はこの1か月血液に触ったことや、性行為などはないと言っている。
・（身内）家族がスクリーニング検査で陽性と言われた。今どうしてよいか分からない。（3回）
・（身内）2週間前母がHIV抗原抗体「陽性」、その1週間後にWB法で「陰性」判定をもらった。これは陽性なのか？陰性なのか？
・（身内）家族が病院でスクリーニング検査で陽性が「1.1」。病院でも微妙な数値なので偽陽性の可能性が高いと言われた。本人が言うには心配な行為は2年前にあったきり。とても不安で自分じゃ電話かけられないと言っている。HIVはコンドームを付けていても感染するのか。キスでは感染しないのか。
・（彼女）2ヶ月ほど前から付き合っている彼女（以前デリヘル勤務していて辞めてからSTIの検査していない）と、2週間前にコンドーム途中から付けてのフェラ

チオされるとコンドーム最初から使用の膣性交するを行った。行為後に彼女から「スクリーニング検査で陽性だったので、確認検査待ちで陽性かもしれない」と言われた。それでHIVに感染したのではないかと不安になっている。自分はアトピーなどで体に湿疹などがあり弱っている部分がある。その部分にも膣分泌液がついていた。30分くらいしてからシャワーで流した。その部分が痛いとか、しみるとかはない。前から排尿痛があったが、今回の彼女と交際する前は誰とも交際してなかった。

・(パートナー)付き合っている人が大腸検査の際にHIV検査をして陽性になった。これから確認検査を受ける事になっている。こういう場合自分も検査を受けた方がいいですか。予防のない性行為はあり、最後は一か月くらい前。どちらがどちらにうつしたのか証明したいんで、証明書の発行が出来るところで検査したい。

□陽性者相談などのまとめ

数年前、陽性者などの相談が難しいとの声が相談員から上がった時、ケースカンファレンスでの最終的な落とし所は、「不安な感情や気持ちを受け止めること」と「専門家が対応した方が良いこと」をわけて、「不安な感情や気持ちを受け止めること」に専念して、専門的なことはぷれいす東京ポジティブラインに繋ぐことで、相談員の心理的な負担を和らげようと考えた。ところが今年度の陽性者などの相談内容を見ると、専門家でも対応が難しいものが多く含まれていて、個別対応が必要な相談であった。特に地方では、プライバシーの問題があり、陽性者の暮らしにくさが見えてきた。

相談員は、気持ちを受け止めるよう努力をしているが、専門家のサポートや専門的な知識が必要な相談が多く、対応が難しかった。陽性者相談の相談員とも連携した学習会や、ケースカンファレンスを通じて、スキルアップする必要があると思うと同時に、どのような言葉をかけてぷれいす東京ポジティブラインにかけ直してもらうかも課題である。

5. 活動実績（2021年4月1日～2022年3月31日）

1）シフト等活動状況

ミーティング等稼働状況	回数	のべ人数	
電話相談シフト	359日		
スタッフミーティング	10回	114	4/18、5/16、6/27、8/22、9/19、11/28、12/19、1/16、2/20、3/20
世話人会	2回	10	4/18、10/3
ホットライン運営会議	11回	42	4/5、5/10、6/14、7/12、8/16、9/13、10/11、11/8、12/13、1/11、2/14
東京都電話相談連絡会	11回	11	4/9、5/14、6/11、8/13、9/10、10/8、11/12、12/10、1/14、2/18、3/11
東京都電話相談全体会	1回	10	7/11
ホットライン部門研修	2 回	24	10/17、10/24
モニタリング	6 回	12	
実地研修	11 回	22	

2）新人スタッフ研修

他部門と共同の募集を実施。合同でのオリエンテーション・基礎学習を行なった後、ホットライン部門の専門研修を実施した。

(1)合同研修事前オリエンテーション

(2)ぷれいす東京スタッフ合同研修

(1)(2)の詳細については、事務・総務部門の報告を参照

3) ホットライン部門研修

電話相談員に必要な基礎講義を学習後、各研修生とも相談電話事例を用いてロールプレイング、電話相談のモニタリング、実地研修の個別指導へ。全課程修了後、再度本人の意志を確認し、ホットラインスタッフに迎えた。研修の実施・指導はホットライン部門の世話人を中心に、現役スタッフが担当した。今年度研修全体を見直し、日数と時間を短縮した。

今年度はコロナ感染拡大により部門別研修を全てリモート研修にした。

ぷれいす東京合同研修
※事務・総務部門の報告を参照

- 事前オリエンテーション
- 合同研修（2 日間）or 補講

ホットライン部門別研修［1 日目］：6 時間

- グラウンドルールの確認
- ピア・カウンセリング
- HIV 検査について
- 相談デモンストレーション
- リスクアセスメント

ホットライン部門別研修［2 日目］：6 時間

- グラウンドルールの確認
- 検査相談デモンストレーション
- ロールプレイング（1）～（3）
- 質疑応答／研修振り返り
- モニタリング／実地研修に向けて

モニタリング：各 3 時間× 1 回

- グラウンドルールの確認
- モニタリング
- ケース毎の振り返り
- 実地研修に向けて疑問点の解消
- 振り返り

実地研修：各 3 時間× 2 回

- グラウンドルールの確認
- 実地研修
- ケース毎の振り返り
- 知識の確認
- 振り返り（毎回）／今後について（最終回）

〔講師〕生島 嗣（ピア・カウンセリング）・折茂 淳（HIV 検査について）
〔担当スタッフ〕阿曽 義文 / 足立 惟子 / 白幡 素子 / 丸井 淑美 / 山田 恒

6. スタッフの声

「相談を受けてみて」

K.S

相談をする、援助を希求するということは、容易いことではない。

困りごとというものには恥や罪（の意識）が内包され、それを話題にしなければならないからだ。

いったいどんな思いで電話をしてきているのだろうか。いずれにしても、相談者は何らかの決心をして電話を架けている。そうした気持ちについて想像することを大切にしなければと、あらためて思う。

一方、その電話を受ける私は、知識も相談対応も未熟で、まだまだ手探りという状態だ。

ここでの相談がどうあればよいのかということも、よくわかっていない。

まだ数度しか活動していないが、やはり難しいものだ。

難しさを実感するにつれ、荷が思いと感じているが、一期一会の電話での対話をしっかりとできるようになりたいと思う。

「ホットラインに参加して」

保坂 嘉成

私は、感染看護学に興味があり、HIVに感染した患者と関わられて頂く機会がありました。当時、エイズ拠点病院で勤務しておりましたが、AIDSやHIVについての知識をアップデートしていなかったため、死を連想させる疾患だと認識しておりました。現在、様々な治療方法や看護についての知識が得られるようになってから、ぷれいす東京のホットラインの活動を知りました。

新規ボランティア研修会に参加して、私は看護師という患者さんとのお話をするのがすきな性格なので、ホットラインであれば何かのお手伝いができるのではないかと考えました。

コロナ禍でありZOOMによりAIDSの歴史や医学的な基礎知識、相談者とのロールプレーを通じて、様々なことを学ぶことができました。特に、電話では相手の表情が見えない分、声の強弱、テンポ、無言の時間の共有など様々な蓄積された経験から紹介され、研修があっと言う間に終わってしまった印象がありました。

また、実践に入る前には、フォローを受けながら電話相談することで達成感を得ることもできました。

今後の私の活動としては、ホットライン活動されているスタッフの方々に研究を通じて支援できるような取り組みをしていきたいと思います。

7. まとめ

平日が加わり毎日体制となって2年目に入り、同時にコロナウイルス感染症に対策しながらの相談も2年目になった。マスクをしての相談は最初は息苦しく、聞こえませんと何度か言われたものである。

1年目はコロナウイルス感染症に絡んでだったり、単独での相談が多数寄せられていたが、2年目はコロナウイルス感染症の関心が減ったのか、そういう相談も減ってきた。それが相談件数の減少に影響しているかは分からないが、参考までに前年度は507件、今年度は367件だった。

相談件数の減少を見るとコロナウイルス感染症の関心が減った反動で、HIVに関心が戻っては来てないという事か？

多岐にわたる広報活動をしてHIVの関心を高めたり、こういう電話相談がありますよとは呼びかけてはいるが、電話離れにより、特に若い世代は電話相談はハードルが高いのだろうか？

いずれにしろ更なる相談件数の減少はホットラインの存続にも関わってくるので、広報活動の強化などを考えながら、でも相談にはもっと真摯に対応して行かなければと思います。

［データ作成・報告］阿曽 義文

部門報告（Sexual Health Project / SH プロジェクト）

SHプロジェクト、Gay Friends for AIDS合同ミーティング

・今後のHIV啓発について
・TOKYO AIDS WEEKS 2021について

今後のHIV啓発について、部門を超えて検討を行った。Gay Friends for AIDSによる電話相談は、現行の「ゲイによるゲイのための相談」として継続し、啓発についてはGay Friends for AIDS とSHプロジェクトが協働して実施していくことになった。

合同ミーティング

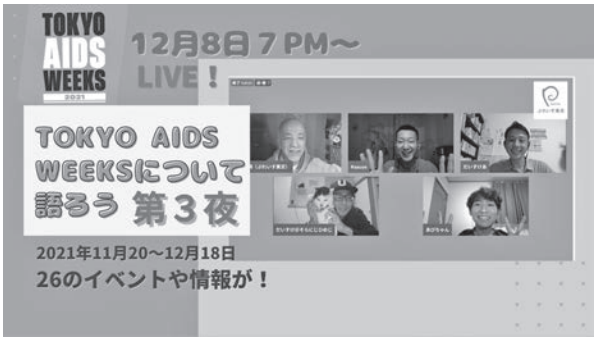
11月 3日（祝） 8人
11月 5日（金） 3人
11月 6日（土） 3人

SHプロジェクト・ミーティング

2月　8日（火） 5人
2月 11日（祝） 6人
2月 13日（日） 4人
2月 19日（土） 2人
3月　8日（火） 3人
3月 21日（祝） 5人
3月 28日（月） 5人

動画配信

TOKYO AIDS WEEKSについて語ろう
第1夜 11月23日（祝）出演者：3人、コメント者：数人
第2夜 11月 30日（火）出演者：3人、コメント者：数人
第3夜 12月　8日（水）出演者：2人、コメント者：数人



SHプロジェクト・スタッフが 企画・運営
ぷれいす東京・オンライン花見

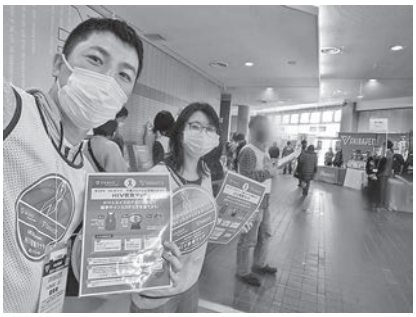
2022年3月 27日（日）午後1時～
SHプロジェクトのメンバーも含めて参加者は21人。
川田龍平さんも京都から参加。

カラオケ歌唱、ソウルサウンドライアー演奏、スマホで5地点から中継（高幡不動：日野市、別府、レインボーフェスタ和歌山の会場、新宿御苑、沖縄）

・小グループ第1回テーマは、「新型コロナとHIV」、「長谷川博史さんについて」、「kazuyaさんに京都について教えてあげよう」、第2回は小グループによる「自由なおしゃべり」だった。
・参加者で記念撮影を3回行った。SNSなどでの利用も同意を得た。

スタッフ派遣

12月4日（土）レッドリボンCUP/ 千葉ジェッツ
スタッフ：2人



12月18日（土）club VITAにブース“Stay Healthy”
スタッフ：4人　外部協力者：2人

メディア・コラボ

取材への協力を行なった。若い人向けの「GAY向けニュース・アンロミー！」に陽性スタッフ二人が協力

「改めてHIVと真剣に向き合ってみよう。～MR GAY JAPANのHIROさんが、当事者の方に直々にインタビュー」

新企画『メンタルヘルス・依存に関する居場所づくり
～ポート「ぽ」』

メンタルヘルス・ポート「ぽ」～メンタルヘルス・依存などについて話しやすく、情報交換ができる場を作る予定。SHプロジェクト・メンバーの中で、薬物使用や他の依存を経験したメンバーを中心に、「心の港」となれるような場所をオンライン上で作るためのプロジェクトがスタートした。

1. 電話相談

●2021年度活動記録

(1)実施日

毎週土曜日　19時～21時

(2)年間相談活動日数

50日（2020年度：29日）

※4/3 ～ 4/10の土曜日の2日間

（新型コロナ感染症拡大による中止）

(3)電話相談活動時間数

100時間（2020年度：58時間）

(4)相談体制

相談員 5名（兼務シフト担当1名）

(5)年間相談件数

99件（うち陽性者等の相談9件）

（2020年度：相談件数69件、うち陽性者等9件）

(6)ろう者ゲイ（聴覚障がい者）のメール相談

0件

●2021年度相談件数

(1) 全般

表1は月別の相談件数および1日あたりの平均件数を表している。

2021年度の年間相談件数は前年度と比べ30件増加した。今年度はコロナ感染症などによる中止が2日間だけなので増加するのは分かっていたが、平均件数はたったの0.34件の増加のみで前年度中止した影響はまだ残っている感じです。

表1　月別の相談件数及び一日当たりの平均件数

		2021年度			（参考）2020年度		
年	月	相談件数（件）	実施日数（日）	平均件数（件）	相談件数（件）	実施日数（日）	平均件数（件）
2021年	4月	3	3	1.00	3	1	3.00
	5月	11	5	2.20	0	0	0.00
	6月	7	4	1.75	5	2	2.50
	7月	6	5	1.20	9	4	2.25
	8月	7	4	1.75	13	5	2.60
	9月	13	4	3.25	8	4	2.00
	10月	11	5	2.20	11	5	2.20
	11月	11	4	2.75	10	4	2.50
	12月	9	4	2.25	10	4	2.50
2022年	1月	7	4	1.75	0	0	0.00
	2月	5	4	1.25	0	0	0.00
	3月	9	4	2.25	0	0	0.00
	合計	99	50	1.97	69	29	1.63

(2) 相談時間

表2は相談時間を10分単位にまとめたものである。

2021年度は、10分以内で終わる相談が6割以上であった。なお、1件あたりの平均相談時間は12.83分で、前年度の12.99分と件数が増加したのに時間はほぼ変わりなしだった。11分～30分の相談が8%も落ち込んだからでしょう。

表2　相談時間

相談時間（分）	2021年度		2020年度	
	件数	割合	件数	割合
～10	62	62.6%	39	56.5%
11 ～ 20	15	15.2%	12	17.4%
21 ～ 30	10	10.1%	11	15.9%
31 ～ 40	6	6.1%	5	7.2%
41 ～ 50	4	4.0%	1	1.4%
51 ～ 60	0	0.0%	0	0.0%
61 ～	2	2.0%	1	1.4%
合　計	99	100.0%	69	100.0%

(3) 相談者の年代

表3は相談者の年代別の相談件数を表している。

2021年度は20代は増えましたが30代は前年より減少し、年代不明が50%以上になり特定のリピーターが相変わらずかけてくるのが理由だと思う。

表3　年代別の相談件数

年代	2021年度		2020年度	
	件数	(割合)	件数	(割合)
10代	0	0.0%	0	0.0%
20代	14	14.1%	7	10.1%
30代	20	20.2%	17	24.6%
40代	10	10.1%	7	10.1%
50代	2	2.0%	1	1.4%
60代以上	0	0.0%	1	1.4%
不明	53	53.5%	36	52.2%
合　計	99	100.0%	69	100.0%

(4) 相談電話の発信地域

表4は相談電話の発信地域を示している。

2021年度は東京からが減少し、関東以外からの相談が約8%も増加して、地方では相談出来るツールがまだまだ少ないことが分かる。

なお発信地不明が年代と同じく50%以上になりました。

表4　相談電話の発信地域

地域	2021年度		2020年度	
	件数	(割合)	件数	(割合)
東京	8	8.1%	10	14.5%
東京以外の関東	15	15.2%	10	14.5%
関東以外	23	23.2%	11	15.9%
不明	53	53.5%	38	55.1%
合　計	99	100.0%	69	100.0%

(5) 相談電話の情報源

表5は相談電話を知った情報源を表している。

2021年度は「携帯電話・モバイル」からが0%になった。スマホで見ても「インターネット」と答えるからで、だから「インターネット」が31.9%から39.4%と少し増えた。

表5　相談電話を知った情報源

情報源	2021年度		2020年度	
	件数	(割合)	件数	(割合)
ゲイ雑誌	1	1.0%	1	1.4%
検査機関・パンフレット	1	1.0%	0	0.0%
他の相談電話	0	0.0%	3	4.3%
インターネット	39	39.4%	22	31.9%
携帯電話・モバイル	0	0.0%	1	1.4%
口コミ	0	0.0%	0	0.0%
その他	2	2.0%	4	5.8%
不明	56	56.6%	38	55.1%
合　計	99	100.0%	69	100.0%

(6) 相談者のセクシュアリティ

表6は相談者のセクシュアリティを表している。

「ゲイ」からの相談が8割近くを占めている。今年度もGay Friends for AIDS 電話相談(以下、Gフレ電話相談)の対象外のセクシュアリティからの相談が減ったが、不明が2.9%から15.2%と増えたが、この中には対象外の方からの相談もあったかもしれないが、自分のセクシュアリティが本当に分からないという方もありました。

表6　相談者のセクシュアリティ

区分	2021年度		2020年度	
	件数	割合	件数	割合
ゲイ	76	76.8%	62	89.9%
ゲイ周囲	0	0.0%	0	0.0%
既婚者・バイセクシュアル	3	3.0%	0	0.0%
男性に性的興味を持った	0	0.0%	1	1.4%
レズビアン	0	0.0%	0	0.0%
トランスセクシュアル等	0	0.0%	0	0.0%
異性愛者(男)	4	4.0%	4	5.8%
異性愛者(女)	1	1.0%	0	0.0%
不明	15	15.2%	2	2.9%
合　計	99	100.0%	69	100.0%

●相談内容について

2021年度は、99件の相談のうち陽性者対応11件(後述)と異性間性行為(男・女)8件と無言1件を除いた79件について検討し、HIV関連相談とHIV以外の相談に分類した。前年度と同様に1回の相談で複数の内容の相談が寄せられているケースも見受けられた。複数の相談を独立させて計上した結果、HIVに関連した相談が132ケース、HIV以外の相談(非HIV関連)が78ケース、合計210ケースとなった。

また、ろう者ゲイ(聴覚障がい者)のメール相談は0件であった。

(7) HIVに関連した相談…132ケース

図1はHIV感染不安や検査あるいはHIV以外の性感染症(STI)などに関する相談(以下:「HIV関連相談」)の内訳である。

2021年度の相談特徴を前年度と比較してみると、「他のSTI」が12.7%→4.5%、「予防なしアナルセックス感染不安」が7.6%→5.3%、「アナルセックスとフェラチオ両方の行為の感染不安」が6.8%→3.8%と減少し、「検査に関して」が20.3%→20.5%とほぼ変動なし、「予防なしフェラチオ感染不安」が1.7%→6.1%と増加した。

リスクのある行為をして相談してくるケースは、前年度同様にリスクが有る事を分かっていながら、行為を止められないといったケースが複数あり、前年度から継続して相談して来ているケースもあった。その様な相談には今後の予防について共に考えると同時に検査により現状を知る事をアドバイスしている。フェラチオに関する相談は、毎年のことであるが、する側・される側ともに予防をしている者は、相談票の記載からは読み取れなかった。アナルセックスでは適切な予防をしながらもフェラチオをする事による感染リスクを知らず行為の後に不安になり相談してきたケースが複数あった。

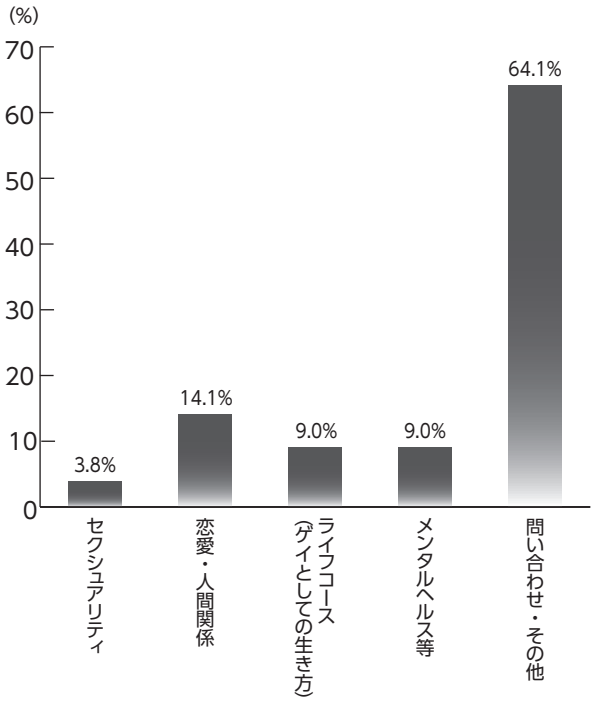
「その他の性行為の感染不安」では、相手の正常な皮膚を舐めた等、感染の可能性の無い行為で心配になり相談してきたケースが目立った。

「予防の情報提供」に関しては、今年度も、どの様にセーファーセックスをしたら良いか迷っている相談もありましたが、他にPep・Prepに関する相談も増えてきてネットや冊子などを見て対応しましたが、今後更に増えてくると思うのでしっかり勉強していかないと思いました。

(8) HIV以外の相談(非HIV関連相談)…78件

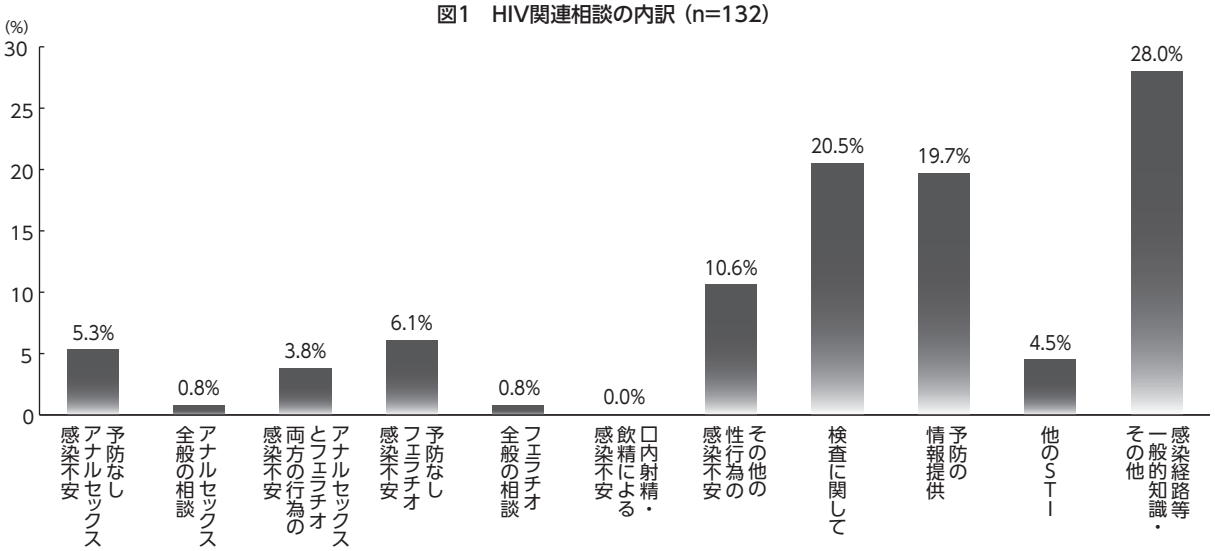
図2は、セクシュアリティ(性的指向)、ライフコース(ゲイとしての生き方)、そして人間関係などゲイとしてのアイデンティティに関わる「非HIV関連相談」の内訳である。

図2　非HIV関連相談の内訳 (n=78)



前年度と比較すると「ライフコース(ゲイとしての生き方)」が12.5%→9.0%、「メンタルヘルス等」が7.8%→9.0%、「セクシュアリティ」が10.9%→3.8%、「恋愛・人間関係」が20.3%→14.1%と変動した。

図1　HIV関連相談の内訳 (n=132)



ライフコース(ゲイとしての生き方)」では、カミングアウトやハッテン場に関する相談などがあった、「恋愛・人間関係」では、出会いの機会、結婚しているが男性と関係を持っていると言った相談などが寄せられた。

「セクシュアリティ」では、自分の性的指向への迷いに関する相談などが寄せられた。

(9) 陽性者等の対応について…11件

2021年度の陽性者等の対応は、HIV陽性者からの相談が9件、パートナーや友人など陽性者本人以外からの相談が2件、検査での要確認の相談が0件で、全相談件数に対する陽性者等の割合は、直近の3年間では、13.5%→13.0%→11.1%と推移している。

陽性者等の相談内容は、最近陽性と分かり友人や会社などへの告知をどうしたらよいか、が多かった。珍しい相談としては医療脱毛は陽性者は受けられるのか、といのもあった。

周囲の相談として久しぶりに母親から、息子から陽性とセクシュアリティを同時に告知されて動揺していますという相談などがあった。

●今後の課題

A. 相談員の増員、学習等

今年度も仕事の関係などでシフトを変更する事が非常に多かった。その際にはシフト調整係が活躍した。

今後、仕事などの関係でシフトに入れなくなるスタッフが出る事も考えられるため、引き続き人員の育成を検討していく必要があるだろう。

B. 相談日数・時間枠の検討と広報の必要性

今年度の相談件数は、コロナ感染症などで中止していた時期があるので、単純に前年度と比較が出来ないので割愛する。

広報では、今年度は不明件数が過半数だったけれど、やはりインターネットで知った相談者が多いので、そこに重点的に広報をして行きたいと思います。

C. 陽性者等の対応に関して

今年度は11%しかなく過去5年間で一番少なかった。これは、ポジティブラインが土曜日もやっていることや、過去に頻繁にかかっていた陽性者のリピーターが、かかってこなくなったからかもしれない。相談員それぞれにHIVとの関わり方に違いはあるがHIVを身近に感じているゲイとして、これからも陽性者等が孤立しないよう対応していきたい。

専門性の必要とされる情報に関しては、適切な相談機関を案内しているが、Gフレ電話相談実施時間に他の相談電話が実施されていない事を考えると、現在よりも陽性者の必要とする情報等について更に知識を深めて行く努力をして行きたい。

D. 非HIV関連相談に関して

今年度も様々な相談が寄せられた。非HIV関連の相談では、相談員ごとの価値観の違いにより、回答に違いが生じると思われるが、人それぞれ置かれた環境の違いから相談者自身でしか答えを出せない事、他の相談員の場合違う回答になる可能性を伝えた上で、自身の経験など参考になりそうな話をしている。

専門外ではあるが、セクシャリティーやゲイとして生きる事など、相談機関が少ない事などを考えると今後も可能な限り対応して行きたい。相談者の今後の人生の選択に大きく影響する事も考えられるので、今後もミーティングやケースカンファレンスで情報を共有し、様々な考えや指向など共有していきたい。

【データ作成・報告】よし

2. イベントでの活動

2021年の4月22日(金)から4月24日(日)まで東京レインボープライドが開催された。新型コロナウイルスの流行によりオンラインで開催されたが、オンラインブースを出展した。またヴィーブヘルスケアからの依頼で、バーチャルパレードの進行を依頼されたが、sakuraさんがその役割を担当した。

また、2021年12月1日(水)～12月15日(水)まで、プライドハウス東京レガシーでは、世界エイズデー展「トランスジェンダー とセクシュアルヘルス(性の健康)」が開催された。TOKYO AIDS WEEKS2021の参加イベントであるこの展覧会を共催した。

●最後に

2021年4月26日、ぷれいす東京で長年、Gay Friends for AIDSのコーディネーターとして活躍してくれたsakuraこと桜井啓介さんが逝去された。2021年5月22日に開催した、オンラインでの偲ぶ会では、生前に親交のあった方々のスピーチやメッセージをいただき、多くの方にご参加いただいた。これまでの貢献に感謝すると共に、ご冥福を祈ります。

Ⅰ．活動概要

主な活動は、ネスト・プログラムの企画・運営、プログラムのための人材育成・研修である。

(A)ネスト・プログラム

【目的】
HIV陽性者・パートナー・家族が安心して話し合う場・学習や情報交換の場・交流の場の提供

【対象】
HIV陽性者、パートナー、家族

【利用登録】
プログラム参加にはグラウンドルールの承諾を含めた事前の利用登録が必要（対面またはオンライン）

【プログラム】
「グループ・ミーティング」「学習会／セミナー」
「交流会／ピア＋トーク・パーティ」「小ミーティング」

【企画】
ネスト・プログラム担当・相談員で行う毎月２回のミーティング、ボランティア・スタッフを交えた企画会議、利用者からの意見を伺う会など

【広報】
ぷれいす東京Webサイト
ネスト・ニュースレター発行（毎月第一木曜日）
メール配信
SNS（Facebook・Twitter）

(B)人材育成・研修

【ネスト・スタッフの役割】
ファシリテーター（プログラムの進行役）、セクレタリー（プログラムの受付係）、ネスト・ニュースレター発送業務、フライヤー作成、多目的室整備、「陽性者と家族の日記」ライターなど

【人材育成】
ぷれいす東京新規ボランティア研修 → ネスト・プログラム部門研修 → 個別オリエンテーション → ミーティング参加など → OJT（実地研修）

Ⅱ．2021年度活動実績

(A)ネスト・プログラム
（2021年4月1日～2022年3月31日）

○スタッフ数（2022年3月31日現在）　4名

○ネスト・スタッフ数（2021年3月31日現在）97名

○実利用者数　190名
（うち新規利用者数　53名）

○のべ利用者数　733名
（うちピア・ファシリテーターなど積極的参加　58名）

○プログラム開催数　113回
プログラム内容は**表1**を参照

○ネスト・ニュースレター　月1回　年12回発行

その他に、ネスト・プログラム・スタッフ会議（2回／月）、新陽性者PGMファシリテーターによる各回・各期の振り返りミーティング、その他各プログラム担当ファシリテーターやセクレタリーの振り返り、多目的室の整備など適宜開催。

(B)人材育成・研修

○ 2021年度 ネスト・スタッフ研修修了者数　9名

Ⅲ．2021年度活動報告

(A)ネスト・プログラム

ぷれいす東京 Web サイトの「ネスト・プログラム」には、ネスト・プログラムの報告や参加感想文が多数掲載されているので、あわせてお読みください。

(イ)グループ・ミーティング

グループ・ミーティングは、2022 年 3 月末現在 12 プログラムある（うち 4 プログラムは今年度休止）。

表1　ネスト・プログラムと参加状況

プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
(イ)グループ・ミーティング	**57 回**	**342 名**	**44 名**	**38 名**	**43 名**	
1 新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)	14 回	42 名	14 名	21 名	14 名	—
2 ミドル・ミーティング(40才以上の男性陽性者)	11 回	143 名	—	11 名	3 名	—
3 U40ミーティング(10代,20代,30代男性陽性者)	11 回	32 名	11 名	—	11 名	—
4 異性愛者のための交流ミーティング	12 回	73 名	12 名	—	12 名	—
5 ミックス・トーク10(MT10)	2 回	7 名	4 名	—	2 名	
6 陰性パートナー・サポートミーティング	2 回	4 名	1 名	2 名	—	—
7 クロスボーダー＋ミーティング	4 回	36 名	1 名	4 名	—	—
8 群馬サテライト・ミーティング	1 回	5 名	1 名	—	1 名	—
9 川崎サテライト・ミーティング	—	—	—	—	—	—
10 Women's Salon(女性陽性者のためのプログラム)	—	—	—	—	—	—
11 大人女子会(更年期女子会から名称変更)	—	—	—	—	—	—
12 もめんの会(HIV/エイズを支える母親を中心とした親の会)	—	—	—	—	—	—
(ロ)学習会/ワークショップ/セミナー	**12 回**	**147 名**	**1 名**	**21 名**	**4 名**	**33 名**
1 ストレス・マネジメント講座	6 回	31 名	—	6 名	—	6 名
2 アサーション・トレーニング	1 回	9 名	—	1 名	1 名	2 名
3 就職支援セミナー	2 回	32 名	1 名	4 名	1 名	18 名
4 専門家と話そう	3 回	75 名	—	10 名	2 名	7 名
5 ベーシック講座「知っとこ！社会福祉制度」	—	—	—	—	—	—
6 ベーシック講座「HIV ってどんな病気？」	—	—	—	—	—	
(ハ)交流会	**28 回**	**138 名**	**3 名**	**29 名**	**0 名**	**1 名**
1 就職活動サポートミーティング	11 回	33 名	—	11 名	—	—
2 介護職として働く陽性者のための交流会	6 回	39 名	—	6 名	—	—
3 医療者(看護師)として働く陽性者のための交流会	5 回	21 名	—	5 名	—	—
4 障害者枠で働く陽性者の交流会	4 回	18 名	—	4 名	—	—
5 パーティ(サマー・年末)	1 回	13 名	2 名	2 名	—	—
6 しゃべり場ミーティング	1 回	14 名	1 名	1 名	—	1 名
7 教師として働く陽性者のための交流会	—	—	—	—	—	—
8 ピア＋トーク	—	—	—	—	—	—
9 カップル交流会(＋/＋or＋/－カップル)	—	—	—	—	—	—
(ニ)小グループ・ミーティング、その他	**16 回**	**48 名**	**10 名**	**14 名**	**0 名**	**0 名**
1 English Speaker's Meeting	6 回	20 名	7 名	6 名	—	—
2 中国語を話すHIV陽性者のミーティグ	4 回	15 名	—	4 名	—	—
3 ZOOM初心者ミーティング	5 回	5 名	2 名	3 名	—	—
4 ぷれいすトーク in ネスト	1 回	8 名	1 名	1 名	—	—
5 既婚者ゲイ・バイセクシュアル男性ミーティング	—	—	—	—	—	—
プログラム参加者総数	**113 回**	**675 名**	**58 名**	**102 名**	**48 名**	**34 名**

※プログラムは一部を除いてオンライン開催

表（イ） ネスト・プログラムと参加状況

プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
(イ)グループ・ミーティング	57 回	342名	44 名	38 名	43 名	—
1 新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)	14 回	42 名	14 名	21 名	14 名	—
2 ミドル・ミーティング(40才以上の男性陽性者)	11 回	143 名	—	11 名	3 名	—
3 U40ミーティング(10 代、20 代、30代男性陽性者)	11 回	32 名	11 名	—	11 名	—
4 異性愛者ミーティング	12 回	73 名	12名	—	12 名	—
5 ミックス・トーク10(MT10)	2 回	7 名	4 名	—	2 名	—
6 陰性パートナー・サポートミーティング	2 回	4 名	1 名	2 名	—	—
7 クロスボーダー＋ミーティング	4 回	36 名	1 名	4 名	—	—
8 群馬サテライト・ミーティング	1 回	5 名	1 名	—	1 名	—

■ 新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)

【対象】

HIV感染がわかってから6ヶ月以内の陽性者

【定員】

原則5～7名

【開催回数】

2時間のミーティングを2週間毎に計4回実施

【実績】

2001年4月に第1期スタート、2022年3月までに通算で406回開催、参加者数はのべ2,160名(実人数:595名)

【目的】

HIV感染告知後の新たなスタートを切ってもらうこと

【進行】

ピア・ファシリテーター(HIV陽性者当事者スタッフ)1名＋スタッフ・ファシリテーター(進行担当)1名またはピア・ファシリテーター2名

2021年度は第106期から第109期の2回目まで実施、前年度に引き続き原則オンライン開催となったが、第107期最終回のみ対面開催となった。

■ ミドル・ミーティング

【対象】原則40代以上の男性HIV陽性者

【開催】毎月第2土曜日

【進行】ぷれいす東京スタッフ

■ U40ミーティグ

【対象】原則10代～30代の男性HIV陽性者

【開催】原則毎月1回月の後半に開催

【進行】ネスト・スタッフ(ピア・ファシリテーター)による交代制

■ 異性愛者ミーティング

【対象】異性愛の男女のHIV陽性者

【開催】原則奇数月第4土曜日、偶数月第3金曜日

【進行】ネスト・スタッフ(ピア・ファシリテーター)による交代制

4月と10月は人数制限を設けて対面開催とした。

■ ミックス・トーク10(MT10)【10人までの陽性者】

【対象】年代・性別・セクシュアリティなど問わずHIV陽性者ならどなたでも

【定員】先着10名(含ファシリテーター)

【進行】ネスト・スタッフ(ピア・ファシリテーター)による交代制

■ 陰性パートナー・サポートミーティング【HIV陽性者の陰性パートナー】

【対象】HIV陽性者の陰性のパートナー

【開催】偶数月用第1土曜日

【進行】ぷれいす東京スタッフ

■ 群馬サテライト・ミーティング

【対象】群馬近県を中心に全国の HIV 陽性者が参加可能

【開催】不定期開催

【進行】ネスト・スタッフ（ピア・ファシリテーター）、ぷれいす東京スタッフ

［NEW］

■ クロスボーダー＋ミーティング

【対象】海外移住を希望していたり海外に興味のある HIV 陽性者、海外在住の HIV 陽性者

【開催】隔月開催

【進行】ぷれいす東京スタッフ

以下のプログラムは 2021 年度の開催はなかった。

■ Women’s Salon【女性陽性者】

■ 大人女子会【女性陽性者】

■ もめんの会【母親を中心とした陽性者の親】

■ 川崎サテライト・ミーティング

（ロ）学習会／ワークショップ／セミナー

表（ロ） ネスト・プログラムと参加状況

プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
（ロ）学習会／ワークショップ／セミナー	12 回	147名	1 名	21 名	4 名	33 名
1 ストレス・マネジメント講座	6 回	31 名	—	6 名	—	6 名
2 アサーション・トレーニング	1 回	9 名	—	1 名	1 名	2 名
3 就職支援セミナー	2 回	32 名	1名	4 名	1 名	18 名
4 専門家と話そう	3 回	75 名	—	10 名	2 名	7 名

HIV と長く付き合いながら、自分らしく生きていくために必要なスキルを身につけるためのワークショップや、専門家からの情報や、社会制度の基礎など、陽性者に役立つ情報を提供する学習会、企業の人事担当などを招いて行う「就職支援セミナー」などを開催している。

2022 年 3 月末現在 6 プログラムある（うち 2 プログラムは今年度休止）。

■ ストレス・マネジメント講座
～ストレスとうまくつきあうためのワーク～

【対象】HIV 陽性者

【定員】各期 10 名

【目標】ストレスに関するワークによってマネジメントスキルを身につけること

【開催】1 期全 3 回（1 回 1 時間半）、年に 2 期

【講師】臨床心理士の資格を持つぷれいす東京スタッフ

今年度は5月に第36期、12月に第37期を開催。

■ アサーション・トレーニング
～自分も相手も大切にする自己表現～

【対象】HIV 陽性者

【定員】9 名

【目標】相手も自分も大切にする自己表現＝アサーティブなコミュニケーションを身につけること

【開催】1 期 5 時間、年に 1 回

【講師】外部講師（臨床心理士）とぷれいす東京スタッフ（臨床心理士）

今年度は10月に第14期を開催。

■ 就職支援セミナー

【対象】就職・転職に興味のある HIV 陽性者

【開催】年に 2 回

今年度は4月に第15回（5企業参加）、10月に第16回（5企業参加）を開催。

■ 専門家と話そう

【対象】HIV 陽性者

【開催】原則年 2 回

今年度は5月に前年度開催延期となっていた第23回「ナースと話そう」を開催、7月に第24回「感染症の専門家と話そう～HIV 陽性者と新型コロナワクチン」を開催した。さらに2月に対象をHIV 陽性者に限定しないYouTube視聴型のオンラインセミナー「感染症の専門家と話そう～HIV 陽性者と新型コロナワクチン2」を開催した。

以下のプログラムは2021年度の開催はなかった。

■ ベーシック講座「知っとこ！社会福祉制度」

■ ベーシック講座「HIVってどんな病気？」

(ハ)交流会

表（ハ）　ネスト・プログラムと参加状況

プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
(ハ)交流会	28回	138名	3名	29名	1名	1名
1 就職活動サポートミーティング	11回	33名	—	11名	1名	—
2 介護職として働く陽性者のための交流会	6回	39名	—	6名	—	—
3 医療者(看護師)として働く陽性者のための交流会	5回	21名	—	5名	—	—
4 障害者枠で働く陽性者の交流会	4回	18名	—	4名	—	—
5 パーティ(サマー・年末)	1回	13名	2名	2名	—	—
6 しゃべり場ミーティング	1回	14名	1名	1名	—	1名

境遇や立場がより近い陽性者同士で集まって、日ごろ疑問に思っていることや経験を可能な範囲で共有して、交流をする場である。

2022年3月末現在9プログラムある(うち3プログラムは今年度休止)。

■ 就職活動サポートミーティング

【対象】就職・転職活動をしているHIV陽性者

【開催】毎月(平日と土曜日の交互開催)

【進行】ぷれいす東京スタッフ

■ 介護職として働く陽性者の交流会

【対象】介護職として働くHIV陽性者、これから介護業界を目指すHIV陽性者

【開催】偶数月開催

【進行】ぷれいす東京スタッフ

■ 医療者(看護師)として働く陽性者の交流会

【対象】医療系の有資格者のHIV陽性者

【開催】奇数月開催

【進行】ぷれいす東京スタッフ

■ 障害者枠で働く陽性者の交流会

【対象】障害者枠で働いているHIV陽性者

【開催】不定期

【進行】ぷれいす東京スタッフ

■ パーティ（サマー・年末）

【対象】HIV陽性者、陰性パートナー、配偶者、父母きょうだい

【開催】年末は12月、サマーは8月頃

【進行】ネスト・スタッフ

【内容】自己紹介、サイコロトーク、ネスト・プログラムの紹介など

今年度2年振りに年末パーティをオンラインにて開催。サマーは開催なし。

[NEW]

■ しゃべり場ミーティング

【対象】HIV陽性者

【開催】不定期

【進行】ぷれいす東京陽性者スタッフ

【ゲスト】ぷれいす東京スタッフで臨床心理士

コロナ禍で気持ちがモヤモヤしているHIV陽性者が自由に話せる場として開催。加えて専門家によるアドバイスも受けられるようにした。

以下のプログラムは2021年度の開催はなかった。

■ 教師として働く陽性者の交流会

■ ピア＋トーク

■ カップル交流会（＋／＋or＋／ーカップル）

（二）小グループ・ミーティング、その他

表（二） ネスト・プログラムと参加状況

プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
（二）小グループ・ミーティング	16回	48名	10名	14名	0名	0名
1 English Speaker's Meeting	6回	20名	7名	6名	—	—
2 中国語を話すHIV陽性者のミーティング	4回	15名	—	4名	—	—
3 ZOOM初心者ミーティング	5回	5名	2名	3名	—	—
4 ぷれいすトーク in ネスト	1回	8名	1名	1名	—	—

相談の延長線上でいくつかの小グループ・ミーティングを開催している。中国語や英語など外国語話者のためのミーティングの他、希望者があれば開催を検討するいくつかのミーティングがある。

小グループ・ミーティングは通常のネスト・プログラムのように利用登録を必須としていないが（ぷれいすトーク in ネストを除く）、グラウンドルールの確認などでプライバシーに対する配慮を行なっている。

■ English Speaker's Meeting

【対象】英語を話すHIV陽性者（日本人も参加可）

【開催】隔月開催

【進行】ピア・スタッフ、ぷれいす東京スタッフ

■ 説中文的HIV阳性者集会

～中国語を話す陽性者のミーティング

【対象】中国語を話すHIV陽性者

【開催】3ヶ月に1回

【進行】ぷれいす東京スタッフ

■ ZOOM初心者ミーティング

【対象】ZOOMの使い方に不慣れなHIV陽性者

【開催】不定期

【進行】ぷれいす東京スタッフ

■ ぷれいすトーク in ネスト

【対象】HIV陽性者

【開催】不定期

【進行】ぷれいす東京スタッフ

以下のプログラムは2021年度の開催はなかった。

■既婚者ゲイ・バイセクシュアル男性ミーティング

(B)人材育成・研修

ネスト部門の人材育成・研修は、2012年度に初めて行った。2021年度も新規ボランティア研修修了者を対象に、ネスト部門の募集を行い、11月3日（水・祝）にネスト部門研修をオンラインで開催、ネスト部門を希望した8名に前年度研修修了者1名が加わり、合計9名が参加した。研修は生島とピア・プログラム担当スタッフの加藤が担当した。プログラムでは、実際にファシリテーターを経験してもらうグループ・ワーク形式の実践的なものや、ぷれいす東京への提言、自分がどう関わることができるかなどを考えてもらうような内容のものを行った。

「新規ボランティア研修」→「ネスト・スタッフ研修」から、プログラムのファシリテーターやセクレタリーへとつながる流れを継続しているが、プログラムのオンライン化に伴い、多目的室の入場時のチェックなどゲートキーパー的な役割を担うセクレタリーや、グループ・プログラムのファシリテーターなど、ネスト・プログラムに関わるボランティア・スタッフの活動の幅が狭まり、充分に活躍してもらうことができなかった。どのようにネスト・プログラムに関わってもらえるかを話し合う「ぷれいすトーク in ネスト」のスタッフ向け版を開催したが、今後も活用し、どのようにプログラム運営に携わってもらうか改めて検討していきたい。

Ⅳ．最後に

2011 年 1 月より利用登録制がスタートし、利用者の安全性が大幅に向上した。これまでの利用登録者は 1,362 人（2022 年 3 月末現在）となっている。新型コロナウイルスの影響により、新規利用登録者の数は昨年とほぼ同水準で、例年の半数程度に止まった。

ネスト・プログラムでは、利用者である当事者の声からその要望に応える形で新規プログラムの企画を行ってきた。今年度は昨年に引き続きほとんどのプログラムがオンライン開催となった。そのような状況の中で「クロスボーダー＋ミーティング」と「しゃべり場ミーティング」を新たに立ち上げた。海外に目を向ける陽性者が多く集まる前者と、長く続くコロナ禍での心身の不調を和らげる目的を持つ後者、いずれも今後アップデートを行いながら継続していきたいと考えている。

2019 年度の終わりから続く新型コロナウイルスの影響は、今後もしばらくは続くと思われる。オンライン化によって遠方の利用者が参加しやすい環境になった反面、これまでの参加者が離れてしまうデメリットも発生している。新しいネスト・プログラムのあり方について、運営スタッフだけではなく、現場で関わるボランティア達と共に考えていきたい。今後はリアルとオンラインを融合させたハイブリッド開催を目指して準備中である。

謝辞

今年度も多くの個人のみなさまと団体からご寄付をお寄せいただきました。社会情勢が厳しくなっているなかでご支援いただいたことを深く感謝いたします。助成していただいた東京都福祉保健財団、ご寄付をお寄せいただいたヴィーブヘルスケア株式会社、MSD 株式会社、オフィス Two I、ギリアド・サイエンシズ株式会社（五十音順、敬称略）、そして多くの個人のみなさまに改めて御礼申し上げます。

（文責：加藤 力也、原田 玲子、生島 嗣）

Ⅴ．感想文

異性愛者ミーティング参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2021年5月掲載より）
■「同じ病気を抱えるメンバーとファーストコンタクト」
ますお（感染告知2019年／服薬歴2年／対面は初参加）

まず最初にコロナ渦で何かと制限されるなか出来る範囲で対面の異性愛者ミーティングを開催実行くださり実行委員の皆様に感謝いたします。

私は過去に数回オンラインの異性愛者ミーティングに参加しております。今回初めて対面のミーティングに参加いたしました。私自身この病気になって私以外の陽性者と出会ったことがありません、この対面ミーティングは、私にとって私以外の陽性者と初めて対面するもので私自身が望むことでした。それはこの世界に私以外の陽性者が存在してることは知ってますが、広い世界で自然に同じ病気の人達と出会えることは無いと考えているからです。そして今回のミーティングで同じ病気を抱えて生きているメンバーと直接会話が出来きたことは、私にとって貴重な経験となりました。そこに居るメンバーが同じ病気だからこそ、メンバー個人が抱えてる思いや課題に対し同じ目線で会話ができる。またメンバーが抱えてる課題も自分に置き換えて一緒に考えられる。私にとってこのミーティングは心の拠りどころになりました。

ありがとうございました。

異性愛者ミーティング参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2020年5月掲載より）
■「非日常が日常に」
まゆみ（感染告知年2016年／服薬歴5年／ 30代）

久しぶりに同じ陽性者のみなさんと話して、あぁそういえば自分も陽性者なんだった、と思い出すことができました。毎日服薬して定期的に通院していますが、自分が病気であることが当たり前になっていてすっかり忘れていました。

他の参加者の方の、感染がわかってからあまり日が経っておらず今後どうなるか不安だとか、病気のことを受け入れられていない、という話しを聞いて自分もそうだったなと懐かしい気持ちになりました。

感染がわかった当時は私も同じ気持ちでしたが、時間が経つにつれて自分が病気であることに慣れ、いまでは服薬や通院が日常のことになっています。日常に慣れすぎていて、最近では病気について改めて意識したり考えたりすることがほとんどありませんでした。

今回久しぶりに参加して、顔を合わせて他の人の意見を聞くことで自分の気持ちに気付いたり新たな発見がありました。初めて会う方も、前にお会いしたことがある方も、会ってお話しできてとても楽しかったです。

色々な判断が難しい状況の中で対面での開催をしてくださってとても嬉しいです。貴重な機会をありがとうございました。

アサーション・トレーニング第14期参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2022年3月掲載より）

■「自分の意見を伝えるために」

ハル（2021年3月告知／服薬歴3ヶ月／初参加／30代）

アサーティブ研修では、他の陽性者とのグループワークを通し、どのようにすれば自分の意見を円滑に伝えられるかということを実践的に学ぶことが出来ました。

実際、他の書籍やYouTubeなどでもアサーションに関する知識を得られるコンテンツはありますが、この研修では、同じ病気を持った者同士でワークを一緒に取り組むことが出来るので、他の陽性者と共に、日常生活で感じるコミュニケーションの難しさを共有することが出来、非常に有意義な時間となりました。

また、様々な年代の方が参加しており、年代問わず抱えている悩みは共通なんだと新鮮な気持ちで参加することが出来ました。

この研修で学んだことを、仕事やパートナーとの関係といった日常生活のみならず、セクシャリティーやHIVという病気を持っているということを他人に打ち明けるなど、難しい局面にある際にも、実践して取り入れたいと思います。

長時間に及び講習、ありがとうございました。

アサーション・トレーニング第14期参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2020年3月掲載より）

■「3年越しの参加」

ヒロユキ（感染告知2018年／服薬歴2年半／初参加／40代）

「アサーション」について、私はほとんど意識してこなかったと思う。自分の性格やクセは分かっているつもりだし、人間関係もそこそこ上手くやれている方かなと思っていた。

プログラムを知ったのは、HIVに感染したことが分かって間もない時、ぷれいす東京のスタッフさんが個人面談を持ちかけてくれた、その面談中だった。プログラムを紹介されたが、“今はまず生活や仕事の不安を解消したいし、それに自分はプログラムを受けなくても何とか大丈夫だろう”などと思い、そのままだった。

それから3年経って、感染前と変わらない生活が送れている今、人間関係や自分の言動のあり方など、発覚直後は気にする余裕もなかったモヤモヤが、また気になるようになった。もちろん、全てこの病気のせいではないけれど、感染したことで気持ちや行動に変化があったことは事実で、そんなこともあり、3年前に勧めてもらったアサーション・トレーニングへの参加を決めた。

「自分の気持ちに誠実に素直になる。相手を尊重しながら対等に接し、言葉に責任を持ってコミュニケーションを行う」。アサーションの基本的な考え方は、自分にとって感染前後に拘らず、持っているつもりでほとんど持っていなかった。プログラムに参加したことで、具体的にそれがはっきりと分かった。

3年前の面談中、目先の不安を繰り返す私の様子から、スタッフさんは私の苦手とする一面を見抜いて、プログラムを勧めたのかも知れない。身近なところから試せるアサーティブなスキルを使って、いつか自然に振る舞えるような人になりたい。参加して本当に良かったです。

専門家と話そう第24回「感染症の専門家と話そう～HIV陽性者と新型コロナワクチン」参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2021年8月掲載より）

■「当事者としてワクチン接種の不安・悩みを解消できました」

しょう（服薬歴：2年／初参加／20代前半）

地方に住む当事者として、医師から直接お話を聞くことができるとてもありがたい機会でした。

高田医師はきさくな雰囲気でお話されていて、気持ちよく参加できました。

豊富な資料のもと、かなり丁寧な説明をしていただけたので悩みだったり気になることを解決でき、とてもホッとしました。

ワクチン接種に関して、健常者よりもデータ的にリスクが高い部分はあるけど、陽性者だからと特別に警戒はしなくてもいいんだと安心しました。

感染の仕組み、ウイルス・免疫の仕組み種類、コロナはどういったウイルスなのか、ワクチンに関すること（ワクチンの仕組みや種類について・陽性者と健常者の副反応の比較等）などについて、知ることができました。

今後も、このような機会があればぜひお話しを聞きたいと思います。本日は、ありがとうございました。

専門家と話そう第24回「感染症の専門家と話そう～HIV陽性者と新型コロナワクチン」参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2021年8月掲載より）
■「かなり安心しました！」

ふくろう（感染告知：1999年／40代）

一昨年から軽度の喘息の疾患があります。その服薬をしていて、他に高血圧予防のための服薬もしています。それで、ワクチンは接種しようと検討していました。

それに、一昨年の喘息になる前に肺炎で入院したことがあって、呼吸器系の病気は本当に辛いと思いました。

今回イベントに参加して詳しい専門家の医師のお話を聞くことができて、だいぶ安心致しました。ですが、ひとつ失敗が。ワクチンの予約をイベントの後にと考えていました。今思うと、もし接種しないとしても、キャンセルもできるだろうしサッサと申し込むべきでした。（泣）もう住んでいる区の今の予約は上限に達してしまい8月まで待ってくださいとサイトには出ています。

内容は、ちょっと難しいな～と思うのもありましたが、お話される先生の人柄がよくて、最後まで頑張って参加できました。

次回配給のワクチンは頑張って予約します！準備してくださったスタッフの方々にも感謝申し上げます。ありがとうございました。

専門家と話そう第24回「感染症の専門家と話そう～HIV陽性者と新型コロナワクチン」参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2021年8月掲載より）
■「ワクチンを打つきっかけになりました。」

ひなた（感染告知：1999年／Zoom初参加）

通院してる病院内でも、いろいろな意見が有り。正直不安で戸惑っていました。抗HIV薬を飲んでいる患者さんは、罹患しにくいから。ワクチン接種はしなくても良いのでは？そう有って欲しいと、願う知人も多く。なかなかワクチン接種の決断が出来ませんでした。

何より高田先生の「いま患者さんの多くの質問は、コビット-19の事です…」に安堵しました。

1度目の接種は副作用も無く、8月1日に2度目の接種をします。

「接種したから罹患しないのでは無く、重症化するのを防げる。」!!

「自身が罹患しなければ、接種出来ない周りの人も守れる。」!!

もちろん、マスクと感染予防対策はしっかりとしていきます。今回参加出来て良かったです。一日も早く、マスクの下の笑顔が見られますように。

高田先生をはじめ医療関係者の皆様と、ぷれいす東京の方々に感謝致します。

どうか皆様も、くれぐれもご自愛ください！

第16回就職支援セミナー参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2021年11月掲載より）
■「10年の時の流れを感じる」
まこと（告知年2010年／服薬歴8年／初参加／50代）

セミナーに参加して、感じた事は理解のある企業さんが増えた事！後、真摯に向き合って下さる！って言う点です。

8年前当時在籍していた会社の扱いは、人事の担当者が酷かった！病院に来て病気の話を聞く前に、

この病気で勤務できない！って先生の方からおっしゃってください！って言ったことでした。その後も対応がファジーだの、復職した場合の給料は11万とか結局その会社はやめました。それから公務員の面接もいきました。それも対応が酷かった。しばらくは、仕事の募集状況を見ていました。

最近ある会社でアルバイトをするようになり、昔とは全然対応が違う事にビックリします。例えば、残業！10年前なら切り捨てが当たり前でしたが、今は10分単位切り上げで付けてくれます。後、セクシャリティーの話も全然出てこなくて、みんな大人な対応です。これの経験を基に、就職セミナーに参加しましたがどこの会社も真摯で良い内容でした。

スキルとやる気があれば、どこでも就職できる！そんな気持ちにさせるセミナーでした。

第16回就職支援セミナー参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2021年11月掲載より）
■「オンライン説明会、こういうの、いいかも。」

明久 亜伸

チラシを最初にプリントアウトしておいて、良かったと思った。会社名を聞いても、始めはピンとこなかったから。メールに会社のHPアドレスがリンクされていたので、予習はしてみた。

実際、それがよかった。そうしないと、知らない会社の、分からない用語が出てくるだろうと想像していたから。

個人的には、オンラインでの会社説明は、何度かあったが、今回のような「大手の会社が」「特定の人たち向けに」行うスペースに行くのは、これが初めてだった。

オンラインに入ってみると、もうほとんどの人たちが画面に並んでいた。そして会社の説明が始まった。

今回の５社の方々の、採用担当・以前の説明会で入社してきた先輩方の、業務内容、福利厚生、収入詳細などが画面に出てくる。私の予習段階での会社を重点的にメモっていく。他の会社も、テレビで見たことがある会社ばかりだ。

ひと通りが終わって、会社ごとに個別に部屋を設け、対談していく。時間制限があったが、やっぱり、多少遅くまで話し込んでいた。

オンラインはここまでで、本当に一対一でのやり取りは、ここからメールなどでやっていく、といった感じで終了した。

正直言うと、ここまでやってくれるのか…というのが、率直な一言。もちろん、実際に採用できるかはこれからなのだろうけど、ここまで大手の会社が、こんなに気軽に相手してくれて、説明会というモノの敷居が低くなってくれてる感じがあった。

いま、無職中。この恵まれた条件のうちに、就職先を決めていきたい。

第16回就職支援セミナー参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2021年11月掲載より）
■「転職活動スタート」

TAK（服薬13年／40代）

４年ぶりに、参加しました。

現在障がい者枠で勤務していますが、入社当時と勤務条件が変わってしまい転職を考えるようになりました。

初参加当時は会場でパネル形式のセミナーでしたが、Webでの開催ということでとにかく急いで帰宅。即行でパソコンの電源を入れて起動中に着替えを済ませて、セミナー開始ギリギリに入室することができました。

感染者数が一時期より減っているとはいえ、コロナ禍が続く中、転職活動は本当にできるのか不安がありましたが、実際に人事担当の方の話を聞くことができるのは貴重な機会だと改めて感じました。また、これからの自分の働き方について改めて考えるきっかけにもなりました。

採用情報の収集、応募書類の準備などいろいろやる事がありますが、今回のセミナー参加を転職活動のスタートとして地道に進めていきたいと思います。

年末パーティ参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2022年３月掲載より）
■「ハイブリッド・クリスマス」

カツオ（服薬歴20年／40代）

コロナ禍になり数年が経って、ニューノーマルな日々が毎日のようにアップデートされるなあと、今年を振り返りました。

僕はこのところプライベートで色々とあり、中々落ち着かない日々でしたが、ようやく仕事も落ち着いてきた所で今年の年末パーティにも参加させていただけました。

コロナ前だとスケジュールの都合上や遠方からだと参加の出来なかったプログラムも、オンラインであれば場所や距離も影響なく参加出来る機会が増えると感じております。

確かに対面での臨場感に比べると多少の違いがあるかもしれませんが、僕は新たに参加出来る人も増えたのではないかとポジティブに捉えてます。

デジタル化の進む中で、それぞれの人達に取って良い方向に捉えられれば良いですね。

年末パーティ参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2022年３月掲載より）
■「聖なる夜の忘年会」

Kazuya（2013年感染／服薬８年／30代）

こんにちは !! ボランティアスタッフのKazuyaです。2021年ぷれいす東京忘年会に、スタッフ、司会として参加させていただきました。12月25日に開催とのことで、「それ、忘年会でなく、クリスマスパーティーじゃないですか？」と心の中で呟いたのは内緒で。笑

お花見に続き、オンラインでのパーティーということで、オンラインパーティーの難しさも感じつつも、小グループに分かれてのお話タイム♪♪♪ オンラインあるあるの、相槌問題などもありましたが、そこはみなさん思うことは同じで「オンラインって相槌のタイミング難しいよね～」なんて会話が生まれたり。

時間が経つにつれて、みなさん、だんだん笑顔が増えてきて、声を出して笑ってくれたり、ほっこりする楽しい時間でした。

こういうパーティーだと、普段のミーティングでは会えない方とお話できるところが一番刺激的ですかね～♪♪♪ 学校でいう、文化祭でしょうか。隣のクラスや先輩と近づけるチャンス !! みたいな～。笑

後半には、ぷれいす東京の活動内容の案内もあり、こちらは普段参加している方からの感想や説明もあったりで、他のミーティングにも参加してみた～い♡と

興味をそそられました。

毎回思うのですが、スタッフとして参加しても、事務所の方々のお力添えを感じたり、当日参加してくださる方々からのツッコミや笑顔に支えられ、無事に終えられていると感じます。本当にありがたいです。ま～、いつか？「パーティーの司会と言えば !!」とご指名いただける存在になれたらな～、なんて言ってみる !! 笑笑笑

すてきな時間をシェアしてくださり、ありがとうございます !!

年末パーティ支援セミナー参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2022年3月掲載より）

■「試行錯誤しながらも、熱心な会でした。」

ゆう（2007年11月感染／ 40代）

オンラインでのパーティーということで、初めて参加することができました。コロナ禍以前は、対面ということもあり、遠方なので参加できませんでした。

オンラインでの交流ではありますが、一人ではないと改めて実感した時間を過ごせました。

普段の生活ではあまりHIVについて語る機会もなく、息が詰まる思いをする時があります。

しかし同じ病気を持つ方と話すことにより、普段隠れていたものが、何気なく話せました。またセクシャリティーも様々。色々な話が聞けました。

アイスブレイクやサイコロトークなど、スタッフの方々も用意してくれていました。お忙しい中、準備に開催とありがたく思いました。

この先、社会の変化が予測されます。それに合わせて、パーティーのあり方も時代に即した変化を遂げると思う時間でした。

スタッフの方々や、参加された皆様に感謝します。

しゃべり場ミーティング参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2022年3月掲載より）

■「同じ病気に関わる方同士の時間の共有の場」

クローゼット（30代／感染告知2018頃）

この度は貴重な機会ありがとうございました。以前にもぷれいす東京でのプログラムやイベントに少し参加させて頂いていました。本当は会って会話できるミーティングを切実に求めていたのですが、時期もあり、zoomでの参加でした。出会いや人の話を聞きたいなと思い参加したのですが、緊張が解れてこれからかなーくらいの時に時間となってしまいました。

久しぶりにプログラムでお世話になったスタッフの方に会えたのもすごく嬉しかったです。生きてて良かったって言葉を頂き（何故か会うたび言われていた気もします、笑）正直、今の自分へのパワーワードとなり、参加して本当に良かったと思いました。

またこういった機会があれば参加したいと思いました。

ミーティングは緊張するし、毎回予定が合わずに参加出来ないのですが、U40などにも出てみたいなと感じたのと、いろんな人が集まる花見やクリスマスの会がまた対面で出来る日を心待ちにしています。

いつもありがとうございます（^^）

しゃべり場ミーティング参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2022年3月掲載より）

■「うちの猫にzoom中何回も尻尾で、iPhone落とされて落下音激しくてすいませんでした。」

和（20代頃献血で発覚／服薬約18年／オンライン参加2回目ぐらい／ 40代）

職場や親と話すとは違いまた色々な発見や考えがある事が、新鮮でした。

自己紹介しましたが、緊張で、十分伝わって無いと思い少しだけ。1晩寝床用意する代わりに身体預ける事ばかりしてて感染しました。それは若い時の自分の視野の狭さが浅はかでした。咳がで初め病院に行ったけど扁桃腺と診断され効かない薬飲んで病院勤務してましたが、倒れ肺炎の菌が、脳まで冒し言語身体の信号さえ麻痺させて意味不明な怯えかたした為精神病院に、ゆくゆくレントゲンで発覚してリハビリ頑張りまして今仕事励んで居ます。

今回の参加した理由は、とりあえず前の人のゴタゴタ折り合いついて本当の気持ちで語れると思い参加しました。

度々尻尾でiPhoneはたきおとされ落とされ不快音で迷惑かけてすいませんでした。

前はリアルで会え相談や話しできましたが、流行り病で、オンラインでしか出来ないけどそれでさえ無かったとしたら辛い世の中でしたね。

やっぱり気になるのはワクチン何回打てば終わるのかいつマスク無しの生活に戻れるのか？

今破壊された地盤硬めてますが、何時春が来るのかまたその方法有るのか気になるけどいい所で終わりましたが、中々有意義な時間でした。

次は猫の尻尾気を付けてzoom参加します。多分嫉妬して邪魔してると思います。

しゃべり場ミーティング参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2022年3月掲載より）

■「心の整理へ！」

Kz（2013年感染告知／初参加）

初企画『しゃべり場ミーティング』に参加！

企画には臨床心理士さんもいらして、日頃のストレスを話してみませんか？との書き込みがあったので、面白そう！と思い参加。それと、元々心理学やマインドフルネスにはとても興味があり、日頃から取り入れているのもあり、本物の臨床心理士さんの声を聞けるなんてすてき～と思ったのも参加の動機！

当日は年代やセクシャリティも様々で、普段のミーティングではお会いできない方たちとお話ができ、刺激的だった。特に僕はゲイなので、女性の方とこういう場でお話できるのはとてもありがたかった！

話す内容は『ストレス』と重いテーマであっても、誰かが聞いてくれるだけで、とてもスッキリする !! 小グループに分かれて、話しているうちに、ゲラゲラと笑いに変わり、終わる頃には『もっと話したかった～』と楽しくなってた。笑

こういう場を設けていただけるのは本当にうれしい !! 感謝です♪♪♪ありがとうございます !!

※ぷれいす東京Webサイトには、プログラムごとに多くの参加感想文が掲載されていますので、ぜひお読みください。

1. スタッフ研修

バディ・スタッフとして活動するには、基礎研修を受けた上で部門研修を修了することを条件としている。基礎研修は、HIV/AIDS に関する知識を身につけるとともに、自己の HIV/AIDS のイメージを認識することを目的としている。部門研修は、バディとしての関わり方をどのようにもつか、自分自身でイメージしてもらうことを目的としている。基礎研修は、年に 1 度の各部門合同での「新規ボランティア研修」にて、部門研修は「バディ・ワークショップ」にて行っている。

(1) 基礎研修

●新規ボランティア研修

今年度は 2021 年 9 月 23 日、26 日の 2 日間、オンラインで行なわれた。この研修は各部門合同であり、研修項目も共通したものとなっているが、バディ部門のみならず、ぷれいす東京の全体の活動と HIV 感染症の関連領域も学び、幅広い視点と知識を得てもらうことを目的としている。（詳細は 7 ページを参照）

（実　績）

2021 年度の研修の終了時点での活動希望者は 9 名となった。

(2) 部門研修　　バディ・ワークショップ（8 時間）

バディとして活動を始めようとする自分自身を見つめ直すこと、またクライエントがどのような状態にあるのか理解を深め、その上でバディの役割とは何か、クライエントとの関係性について、自分がバディとして何ができるか、等を考えてもらうことがこのワークショップの目的となっている。

（内　容）

・アイスブレーキング
・自分の最初の喪失について
・自分がバディだったら（仮想体験）
・HIV 陽性者と語る
・喪失を体験するワークショップ
・分かち合いの時

（実　績）

今年度も COVID-19 の状況を鑑みて開催せず。

2. スタッフ・ミーティング / 交流会

●バディ活動スタッフのためのミーティング

活動中のスタッフを対象として、バディ・ミーティングを行っている。午前ミーティングは、奇数月 / 第 1 土曜日 /11:00 ～、偶数月 / 第 1 木曜日 /11:00 ～に開催、夜間ミーティングは第 3 木曜日の 19:00 ～で開催した。なお木曜日の午前ミーティングについては参加者が少ないため、参加がある場合にのみの開催としている。

参加者は、それぞれが担当しているクライエントとの関わりについて、担当者同士やコーディネーターと相談できたり、お互いにアドバイスしあえる場となっている。また、必要に応じて、個別にクライエントに関わる個別ミーティングやスーパーバイズも実施している。

また、不定期ではあるが、バディ同士の交流を目的とした交流会も開催している。

（実　績）

2021 年度も COVID-19 の感染拡大を踏まえ、開催は参加者がある時だけの開催とし、最終的には 5 回開催、のべ 10 名が参加した。

個別ミーティング　　2021 年度は 2 回実施

3. 登録バディのフォローアップ・トレーニング

●フォローアップ研修

基礎トレーニングを終了したスタッフを対象とした研修となっており、待機中のバディに陽性者との関わりについてイメージする機会を持ったり、関係の深い問題について知識を得る機会を提供している。

また、既にバディ活動を行っているスタッフが、自分とクライエントとの関係について、バディの役割について、客観的にとらえる機会になることを目的としている。今年度は開催せず。

4. スタッフの構成（2022 年 3 月末現在）

(1) 性別

男　性	33 人
女　性	19 人
合　計	52 人

(2) 年齢

30 歳代	10 名
40 歳代	18 名
50 歳代	17 名
60 歳代	4 名
70 歳代	1 名
80 歳代	2 名

5. 2021年度バディ活動実績

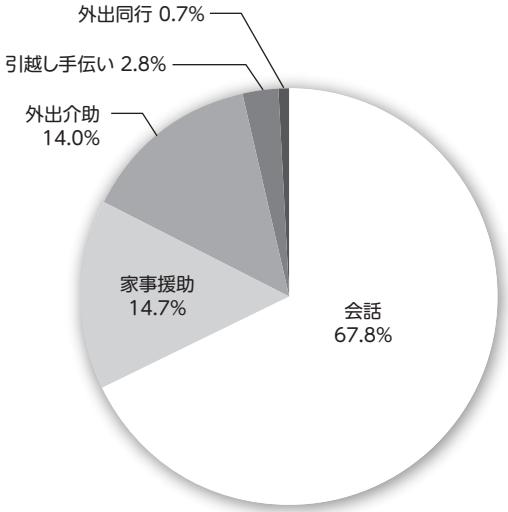
(1) 派遣依頼

・前年度より活動を継続 18名
・活動休止中 6名
・新規依頼 4名
合　　計　　28名

・バディ派遣終了 3名
派遣終了理由　死亡 1名
ニーズの消失 2名

※2022年3月末現在の派遣状況
・活動休止中 6名
・派遣継続中 19名
合　　計　　25名

全体の内容別活動のまとめ (n=125)



(2) 活動バディ・スタッフ

派遣依頼22名(休止中6名を除く)に対し32名のスタッフを派遣した。(クライエント1名に対する実人数でカウント)

(3) 活動内容

今年度のバディ派遣も、COVID-19の影響を大きく受けた。直接支援の活動であるため、依頼者の自宅に訪問し、会話等の活動を行うことが多いのだが、今年度もそうした活動を、感染の状況をみながら、クライエントとバディの両者と相談しながら行った。バディもクライエントも、それぞれが不安がない中で継続することを心がけたため、訪問活動は制限され、電話での会話が増えた。

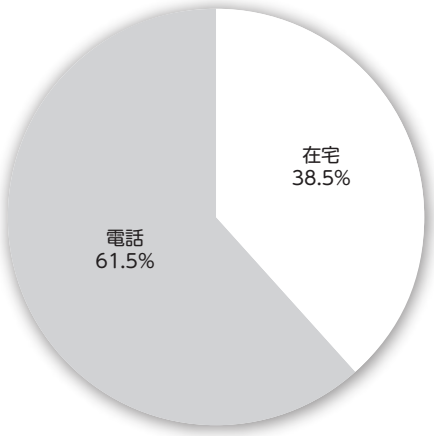
スタッフの報告をまとめたところ143件で、うち、電話によるコミュニケーション(訪問連絡等の電話は件数に含まず)は88件(61.5%)、在宅訪問は55件(38.5%)、病院への訪問は0件で、今年度の総活動時間は約170時間となった。

(4) 訪問先とサービス内容

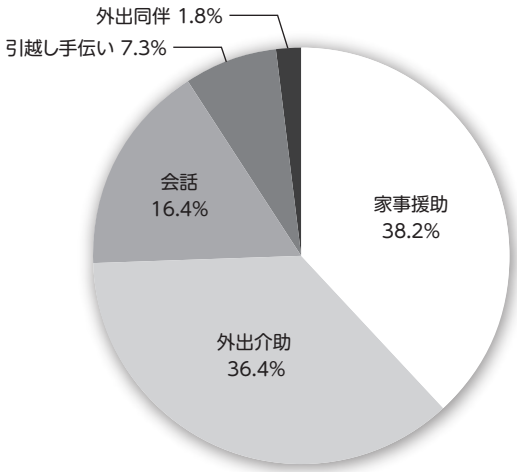
●在宅

在宅での主な活動について、合計で55件の活動があった。内容は、家事援助が21件(38.2%)、外出介助が20件(36.4%)、会話が9件(16.4%)、引越しの手伝いが4件(7.3%)となった。家事援助は、脳症や脳梗塞等の後遺症で記憶障害等のある方の自宅の片付けや清掃、ごみの運び出し等での活動だった。外出介助は、車椅子利用者の外出時の介助であった。会話は、在宅療養している人とのコミュニケーションや気分転換などを目的とした活動であった。今年度もCOVID-19の影響を受け、外出を不安に感じ、外出介助を中止するクライエントが多かった。その他の活動では、引越しの手伝いとして、荷物整理や不用品の処分の手伝いでの活動があった。ちなみに、外出介助やその他の活動においても、会話をしながら活動しているケースがほとんどであった。

主な活動先 (n=143)



在宅での活動内容 (n=55)



●病院

今年度も、病院や施設で活動ができない状況が続き、活動はなかった。

●電話

在宅の方、病院に入院中や施設に入所中の方に、定期的に電話で連絡をし、近況を聞いたり、人間関係を継続する活動になっている。今年度も、COVID-19の影響で自宅への訪問を中止するケースが増えたため、電話での活動が多くなった。今年度は、88件の活動があった。

6. まとめ

●新規依頼と終了したケースの内容と傾向

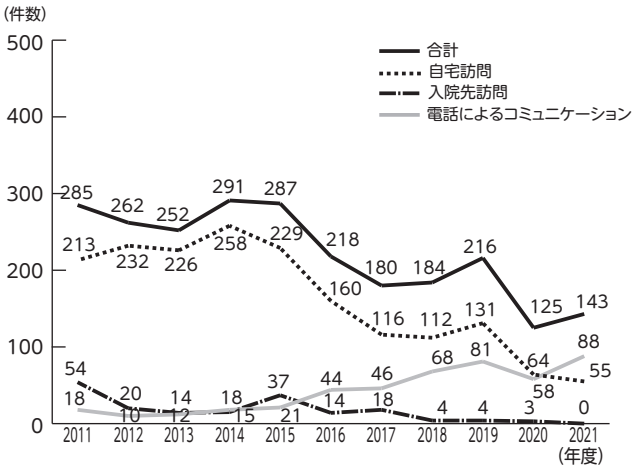
新規に依頼を受けたケースは4件あり、内容は引越し手伝い、部屋の整理、外出同行での依頼があった。引越しの手伝いは、事前の片付けと引越し直前の荷物整理があった。部屋の整理では、部屋に溜まった物の整理を本人と確認しながら行ったが、量がかなり多く、ゴミとして処分するものも多かったため、作業が大変だった。その方は、整理が定期的に必要と思われるため、今後も継続的に活動すると思われる。

活動が終了となったケースは3件で、1件が死亡による終了だった。2013年に活動を開始、月1の訪問での会話から始まり、その後はその方の状況に応じて、通院介助、引越しの手伝い、外出介助、自宅での家事援助などを行った方であった。

●派遣件数の変化

今年も病院での活動はなく、また初めて電話による会話が在宅訪問の件数を上回った。できるだけ、在宅訪問を再開したいところだったが、クライエントとバディが安心して活動できることを念頭に置き、無理のない範囲で事業の運営を行った。バディにとっても、クライエントにとっても我慢の1年だった。

年次活動件数の推移

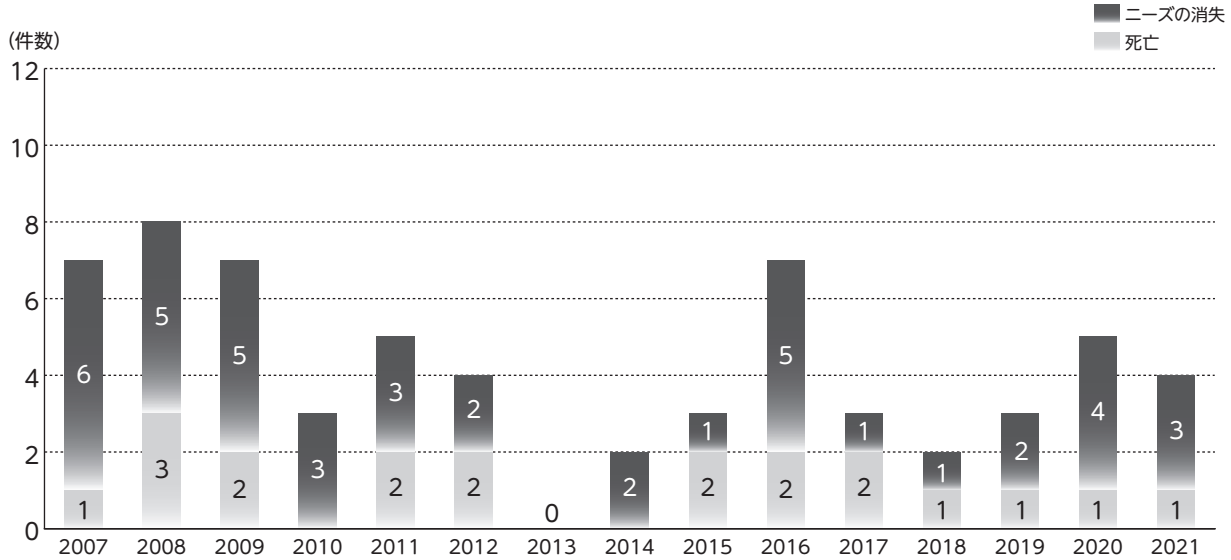


●クライエントの傾向と関わり

クライエントの傾向は、身体に何らかの障害をもちつつ在宅で生活をしている方で、単身の中高年の男性が占める割合が変わらず高い。ちなみに、継続派遣の19名中16名が男性の単身世帯、なんらかの障害がある方は、半身麻痺等による車椅子使用や杖歩行などの歩行困難が7名、精神に疾患等を持つ方が13名となっている。

クライエントとの関わりは、長期的な派遣が多く、7年以上の関わりを持っているケースは休止中も含めると16名、20年以上が2名、10年以上が8名となっている。

活動の終了理由



クライエントとの関わり期間

関わった期間	件数	うち継続
7年以上	16	15
5年以上7年未満	2	2
1年以上5年未満	6	6
1年未満	4	2
合計	28	25

7. 今後の活動にむけて

●コロナ禍での活動

昨年度に引き続き、COVID-19の影響を大きく受け、活動を制限しなければならない年となった。

訪問に関して、基本はクライエントと担当バディの両方が納得した場合においてのみ訪問しており、訪問が難しい場合は、電話で話をするなど、コミュニケーションをとるよう心がけた。普段は外出が目的のクライエントでも、自宅で会話だけを行う場合もあった。外出できない閉塞感、外出での感染不安のストレスが、1年を通じてあり、我慢の1年になったと思う。まだしばらくはこうした状況が続くと思われるので、クライエントもバディも不安を感じずに、安心できる活動を今後も目指したい。

●活動の継続性と体制づくり

活動の継続にあたって、現在のクライエントの多くは、身体や精神になんらかの障害を持っている方が多く、最近ではHIVのみならず、高齢化や他の疾病に由来した身体の機能低下等がみられる方もある。単身者も多く、利用できる社会資源が少ないため、バディにその役割を期待されることがある。今後も、公的サービスを活用してもらいつつ、それだけでは補えない部分をバディが補完し、クライエントの生活支援、生活の質の向上につがなる活動を、柔軟に対応し、継続することができればと考える。また、周囲の公的機関や関連機関とも連携し、お互いに役割分担をしつつ、相互の補完ができるような活動ができればと考える。

コーディネーターとして、数は減ったとはいえ、定期的に亡くなる方があるため、関わったバディ・スタッフのグリーフケアなども可能な中でできればと考える。また、長期的な関係性にあるスタッフもいるため、できるだけモチベーションを保ちながら活動できるようなフォローができればと考える。

最後に、日頃から活動を続けていただいているバディ・スタッフのみなさま、今年度も活動にご協力いただき、本当にありがとうございました。バディ活動は、ボランティアのみなさんがあっての活動です。まだまだ、頼りにならないコーディネーターと言い続けて20年経ちましたが、今後もご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

（文責　バディ・コーディネーター　牧原）

(1) ぷれいす東京　相談サービス報告

ぷれいす東京では、HIV 陽性者、判定保留・確認検査待ちの人、その周囲の人へ、電話や対面、E-mail/ 手紙などによる相談サービスを提供している。電話や対面による相談については、2009 年 4 月以降、厚生労働省の委託事業として、HIV 陽性者や確認検査待ちの人、その周囲の人のための専用の相談電話「ポジティブライン」0120-02-8341（月～土 :13:00 ～ 19:00）と、「対面相談サービス」（月～土 :12:00 ～ 19:00）を提供している。相談は原則匿名で行っている。対応は、HIV に関する電話相談や直接的なケアを担当してきた相談員（社会福祉士 / 医師）、3 人が担当している。2016 年度から、HIV 陽性の相談員による電話相談を毎週木曜日 15:00 ～ 18:00 に設け、シフトを組んで対応している。また、相談員の情報交換、業務確認を目的とした相談員ミーティングを定期的に開催（今年度は 4 回開催）。刑事事件等による身柄拘束者および受刑者との手紙によるやりとり「お手紙プロジェクト」も継続しており、2 名で対応している。

即日検査や郵送検査の普及に伴う、「判定保留 / 確認検査待ち」の結果を受けとる人の増加を踏まえ、ぷれいす東京の web サイトに「判定保留 / 確認検査待ちの人」に向けたページを作成し情報発信している。「誰にも話せない、どうしよう」「これからどうなるの」「結果が出るまでの過ごし方のコツ」といった不安に対するメッセージから、検査の情報、相談窓口の紹介などを行っている。

「判定保留 / 確認検査待ちの人へ」
http://ptokyo.org/consult/pending_results

また、来日する外国人に向けた英語のサイトを 2017 年 12 月からぷれいす東京のホームページ上に公開しており、コンテンツの中には日本の医療制度や福祉制度、ビザについての FAQ（https://ptokyo.org/en/faq）がある。このページを見て、事務所に海外から相談メールが来ることが増えている。なお、メールでの相談は以下の集計には含まれていない。

＜陽性者相談員から～
今年度の当事者相談の特徴　相談員 J ＞

今年度の相談内容で特徴的な話題は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症関連の事項です。特に今年度はワクチンに関する話題が目立ちました。質問に対しては、ぷれいす東京が開催したコロナワクチンに関するオンライン学習会の動画を紹介するなどして、相談者が正しい情報に基づいて接種の可否などを判断できるよう心掛けて対応しました。

一方、今年度の相談者の特徴としては、エイズを発症して HIV 感染が発覚した方が、発覚直後に当事者と話がしたいという理由から当事者相談の時間帯に電話をかけてきてくださるケースが多かったことです。毎週木曜日に当事者相談を実施していることが周知されてきている事の証の一つだと感じています。そうした相談には客観的な情報を提供するとともに、今後の治療や生活の具体的なイメージが描いてもらえるように、自分自身の具体的な経験談を交えて対応しています。当事者と話ができただけで気持ちが落ち着いた、心配が減った等と言っていただくこともあります。

今後も相談対応に必要な情報や知識を増やしつつ、当事者としての視点を大事にしながら相談にあたっていきたいと思っています。

＜お手紙プロジェクト 2021 年度報告　相談員 M ＞

・2021 年度の実績　相談者 9 名 / 対応回数 41 回
　対応相談員 2 名

お手紙プロジェクトは、ぷれいす東京の活動に関わりがあった方たちが、何らかの理由で収監、拘留されてしまった時につながりが断たれないよう、継続して「これから」のことを一緒に考えられるよう対応しています。セクシャリティや HIV 陽性ということをオープンに開示できない環境下で悩まれ、拘留後に初めてぷれいす東京につながる方もいます。

相談者本人の不安はもちろんのこと、関係者への連絡、図書購入や親族への贈答品注文代行、出所後の受診先相談など、必要とされている情報や人との交流をサポートできるよう対応しています。今年度の活動として大きな動きであったのは、お手紙プロジェクトの立ち上げ時から対応している方が、収監中の医療体制の不備について訴訟を起こされていたのですが、ご自身で全国の拠点病院を主とした医師へのアンケート調査をおこない訴訟への資料としたいと希望され、アンケートの作成代行やアンケートに回答した医師と弁護士のインタビュー仲介などもおこないました。

最近は、当事者同士の文通希望のニーズも増加しているので、対応できるメンバーを増やし、よりタイムリーに相談者のニーズに対応できるよう検討していきたいと考えています。

■相談／連絡期間

2021年4月1日～2022年3月31日

■相談／連絡件数

		陽性相談員対応
電話による相談	1703件	(118)
対面による相談	302件	
手紙による相談	41件	
合計	2046件	

■相談者の背景

▼電話相談、対面相談（メール/fax/手紙は除く）
のべ合計2005件（男：1794 、女：173、TS/TG：38）

HIV陽性者	1733件	(1643：	53：	37)
パートナー/配偶者	61件	(46：	15：	0)
家族	54件	(5：	49：	0)
専門家	67件	(28：	39：	0)
その他	39件	(26：	12：	1)
確認検査待ち/判定保留	51件	(46：	5：	0)

「家族」の内訳（54）

きょうだい(28)、母親(16)、こども(7)、父親(2)、家族(1)

「専門家」の内訳（67）

医療機関(29)、法律関連(弁護士/警察)(12)、福祉/行政関連(10)、地域団体(7)、就労関連(5)、保健所/検査所(3)、その他(1)

「その他」の内訳（39）

友人/知人(13)、判定保留者のパートナー/家族/同僚(7)、会社の同僚/上司(6)、性的関係のあった人(3)、親戚(2)、元パートナー(2)、彼氏が陽性かも(1)、親が陽性かも(1)、不明(4)

▼相談者の年代　(n=2005)

10代	5件
20代	46件
30代	251件
40代	718件
50代	547件
60代	217件
70代以上	35件
不明	186件

■ 新規相談（電話・対面）のまとめ（n=224）

属性		[男:182 女:41 TS/TG:1]		
HIV陽性者	117	(111：	6：	0)
パートナー/配偶者	20	(17：	3：	0)
家族	13	(3：	10：	0)
その他/不明	22	(14：	7：	1)
専門家	18	(8：	10：	0)
確認検査待ち/判定保留	34	(29：	5：	0)

家　族 母親(5)、きょうだい(4)、こども(2)、父親(1)、家族（1）

その他 友人/知人(5)、判定保留者のパートナー/家族/同僚(6)、会社の同僚/上司(4)、性的関係のあった人(2)、親戚(2)、彼氏が陽性かも(1)、親が陽性かも(1)、不明(1)

専門家 企業(5)、医療関係(4)、保健所/検査所(3)、福祉関連(3)、地域団体(2)、弁護士(1)

居住地/発信地	
関東	145
近畿	28
東海	19
九州/沖縄	17
中国/四国	5
甲信越/北陸	4
北海道/東北	3
海外	2
不明	1

情報提供者	
情報・ネットワーク（ネット・冊子等）	138
医療や行政などの専門家	27
地域のネットワーク（電話相談・団体）	22
人的ネットワーク（他陽性者・家族等）	13
その他	13
不明	11

検査を受けた機関（n=100）	
病院（外来）	56
保健所/検査所	21
病院（入院）	17
郵送/自主検査キット	2
その他	2
不明	2

検査のきっかけ（n=99）	
自発的（症状なし）	21
HIV 関連の症状（医師の勧め）	19
その他の症状（医師の勧め）	19
自発的（症状あり）	17
術前検査	12
性的接触があった人からの通知	5
妊産婦健診	2
PrEP 関連の検査	1
献血	1
その他	2

■電話／対面相談によせられた内容項目

HIV陽性者と確認検査待ち／判定保留者からの相談について、相談記録をもとに内容を１～９の項目に分類し、詳細をまとめた。複数の項目に該当する相談内容であった場合は、それぞれの項目に含めて集計している。

周囲の人の相談、専門家からの相談や連携については、それぞれの属性で内容をまとめた。

1　検査や告知に関する相談……62
2　告知直後の漠然とした不安……117
3　対人関係に関する相談……266
4-1　生活に関する相談……623
4-2　制度に関する相談……199
5　心理や精神に関する相談……902
6　病気や病態の変化や服薬……205
7　医療体制や受診に関する相談……149
8　医療機関以外の支援体制・リソースへのアクセス……13
9　連絡等のコミュニケーション……964

▼ 周囲の人からの相談……315
▼ 専門家（外部）からの相談や連携……123

1　検査や告知に関する相談：62

1　検査や告知に関する相談	
判定保留時の不安や対応	54
告知の状況	4
検査の信憑性	2
検査機関の対応	1
その他	1

2　告知直後の漠然とした不安：117

2　告知直後の漠然とした不安	
漠然とした不安や混乱	50
身体状況に関する不安	36
生活のイメージ	27
他陽性者との交流	2
プライバシー不安	2

3　対人関係に関する相談：266　（項目は複数選択）

3　対人関係に関する相談	
相手との関係性	149
HIV の通知	31
トラブル	29
恋愛、結婚や離婚、子づくりなど	20
性に関する相談 （sex やセクシュアリティ、セイファーセックス）	13
プライバシー	3
検査（受検勧奨等）	2
その他	19

相談の対象者（n=228）	
パートナー / 配偶者	91
家族	36
友人 / 知人	24
周囲	21
会社	19
元パートナー	15
他陽性者	11
性的関係のあった人	4
NGO スタッフ	2
行政	1
その他	4

4-1 生活に関する相談：623

4-1　生活に関する相談	
就労 / 就学	396
法律問題	53
経済的な問題	49
外国人	46
住宅問題 / ホームレス（野宿生活）	27
海外渡航（留学）/ 海外からの帰国	21
生命保険	15
健康診断	8
医療費	5
その他	3

4-2 制度に関する相談：199

4-2　制度に関する相談	
障害者の制度利用 （手帳取得、自立支援、重度医療、障害者控除、施設入所）	92
生活保護	46
障害者雇用	29
健康保険（高額療養、傷病手当、付加給付、後期高齢者医療）	17
ビザ	3
プライバシー	3
障害年金	3
サービス利用時の対応	2
その他	4

5　心理や精神に関する相談：902

5　心理や精神に関する相談	
精神疾患（抑うつ障害、適応障害、統合失調症、その他）に関する相談	600
薬物依存	155
その他の依存傾向 （アルコール、セックス、ギャンブル、対人、その他）	71
精神科の受療に関する状況	28
自殺念虜	16
ストレス	10
人間関係の閉塞感	9
精神的な不安定さ	6
HIV の受容	4
セクシュアリティの受容	2
その他	1

※「精神疾患」は、本人から病名や通院履歴等の申告があり、その時の相談内容に影響していると相談員が判断した場合に選択

6　病気や病態の変化や服薬：205

6　病気や病態の変化や服薬	
その他の疾患	97
服薬の継続	33
HIV の関連症状	12
CD4 の変化	11
投薬前の不安	11
副作用	9
入院中の病態	8
その他	24

・その他の疾患（順不同）（本人の申告に基づく）
風邪、喘息、B 型 /C 型肝炎、梅毒、アメーバ赤痢、膵臓がん、大腸がん、前立腺がん、脳腫瘍、花粉症などのアレルギー症状、下痢、再発性角膜びらん、尖圭コンジローマ、帯状疱疹、潰瘍性大腸炎、勃起不全、ヘルニア、熱中症、腸閉塞、剥離骨折、糖尿病、ものもらい、切り傷、不定愁訴、その他

・HIV の関連症状（順不同）
進行性多巣性白質脳症の後遺症、HAND（HIV 関連神経認知障害）、ニューモシスチス肺炎、カポジ肉腫、リポジストロフィー、カンジダ症

7　医療体制や受診に関する相談：149

7　医療体制や受診に関する相談	
医療・検査機関の選択	40
医療従事者とのコミュニケーション	38
他科受診	35
歯科受診	13
通院や服薬の中断・拒否	13
精神科受診	1
セカンドオピニオン	1
その他	8

8　医療機関以外の支援体制・リソースへのアクセス：13

8　医療機関以外の支援体制・リソースへのアクセス	
ぷれいす東京のサービスの問い合わせ	5
外国の情報（ビザ、医療機関、医療状況）	4
その他の機関・リソースの利用	1
他陽性者との交流	1
その他	2

9　連絡等のコミュニケーション：964

9　連絡等のコミュニケーション	
近況報告	579
ネストプログラムの利用	54
利用登録	42
面談の調整等	22
積極的な協力・参加	18
その他	249

その他のうちコロナ関連の内容：200
ワクチン接種（118）、コロナ話題（60）、コロナ感染不安（8）、
コロナの影響・抗 HIV 薬の入手 / 海外赴任（6）、
コロナ感染・療養（4）、コロナ疑い（4）

▼ 周囲の人からの相談：315

(1) 検査や告知に関する相談	13
(2) 通知を受けた直後の漠然とした相談	27
(3) 対人関係に関する相談	120
(4) -1 生活に関する相談	25
(4) -2 制度に関する相談	15
(5) 心理や精神に関する相談	25
(6) 病気や病態の変化や服薬	10
(7) 医療体制や受診に関する相談	14
(8) 支援機関・リソースへのアクセス	3
(9) 連絡等のコミュニケーション	63

相談者の背景は P46 を参照。

▼ 専門家（外部）からの相談や連携：123

(1) 検査や告知に関する相談	0
(2) 通知を受けた直後の漠然とした相談	1
(3) 対人関係に関する相談	18
(4) -1 生活に関する相談	19
(4) -2 制度に関する相談	13
(5) 心理や精神に関する相談	3
(6) 病気や病態の変化や服薬	2
(7) 医療体制や受診に関する相談	9
(8) 支援機関・リソースへのアクセス	7
(9) 連絡等のコミュニケーション	51

相談者の背景は P46 を参照。

■1年を振り返って

・COVID-19の影響

今年度も COVID-19 の影響を大きく受けた 1 年だった。対面相談は、感染予防に配慮した来所面談と、リモートによるオンラインの両方で対応した。リモートによる面談は、COVID-19 の流行後に開始したのだが、これまで利用できなかった地方の方や、直接来所できない方の利用を可能にするメリットがあった。電話相談でも COVID-19 に関する相談が今年度も多くよせられていた。内容は、ワクチン接種に関する話題が多くを占め、その他では、日々の感染状況などの話題、自分の感染不安、日本に在住する外国人の薬の入手困難、海外への赴任、COVID-19 感染後の生活と療養など、様々な相談があった。

・相談件数と内容の変化

昨年度と比較して、件数は大きな変化はみられなかった。

相談内容を昨年度と比較してみると、心理や精神に関する相談と告知直後の漠然とした不安で増加があった。それ以外の項目、検査や告知に関する相談、生活に関する相談、制度に関する相談、病気や病態の変化や服薬、では減少がみられた。これらの各項目の中にも、COVID-19 の影響が考えられるものがあり、心理や精神においては、コロナ禍の行動制限によるストレス等で、メンタルヘルスが悪化したと思われる方の相談が増えていた。またストレス発散として、薬物を使用した方が逮捕され、弁護士を通じて連絡をもらうケースもあった。

告知直後の不安では、保健所等での検査の減少が影響してか、発症判明の方も多く、HIV に関する情報が少ない非拠点の医療機関の検査で判明し、不安や混乱が強い状況で相談を受けるケースが多かった。また、検査の減少からか、判定保留 / 確認検査待ちの状態での相談が減少していた。

・今後に向けて

まだ COVID-19 の感染が収まらない状況では、今後も同様の傾向が見られるのではないかと考える。こうした状況が続くと、より脆弱性の大きい人に影響が出る可能性が考えられ、日本に在住する外国人、精神疾患のある方や薬物使用者、不安定な就労形態 / 経済状態の方など、より支援が困難なケースが増えることが想像される。今後も多様で複雑な問題を持つ相談者に対して、自分たちの限界を知りつつ、周囲の医療機関や支援機関と役割分担をしながら、支援に関われればと思う。

（文責：牧原、生島、福原）

■相談員から

今年度は新型コロナウイルスの影響もあり対面での相談が大きく減少した。しかし、定期相談者の中にはメンタルや依存に関する課題を抱える人も多く存在した。また、外国籍の相談者から日本への移住に関する相談も寄せられており、メールやオンラインでの対応などの事例も少なからず存在した。ネストプログラムと連携しつつ、話せる場や自己の振り返りの場を提供すること、また、SH プロジェクトと連携して、依存を経験した人たちのピアな場づくりにも取り組んでいきたい。(生島)

個人的に気になったこととして、U=U や PrEP について当事者やパートナーから相談を受けることが増え、詳しい情報の浸透を感じることがある一方、通知を受けた家族や会社の同僚等、陽性者本人からも、汗や唾液等での感染の不安を訴えられることも多くあり、個々人の知識や情報の量や質、HIV のイメージ、情報の受け取り方の違いを感じることがあった。相談員の役割として、多様な状況の方に対しても、情報を正しく、わかりやすく伝えていくことの大事さを考えさせられた。(牧原)

(2) HIV 陽性者等の HIV に関する相談等支援事業

本事業は、厚生労働省の受託事業として13年目となった。今年度も任意団体 CRIATIVOS (P-LATINO) とぷれいす東京の 2 団体にて運営を行った。

「HIV 陽性者等の HIV に関する相談・支援一式 (関東地域におけるピア・カウンセリング等支援事業)」は、HIV 陽性者 (エイズ患者を含む) やパートナー、家族を対象にピア・カウンセリングや電話・対面による相談サービス等を提供することを通して、対象者の社会生活を支援し、生活の質を高めることを目的としている。

Ⅰ　事業の概略

本事業は、以下の 7 つの柱から成り立つ。

① HIV 陽性者参加型のピア・カウンセリングの実践とグループ・プログラムの開発と運営

② HIV 陽性者を含むスタッフの研修及び育成

③ HIV 陽性者の社会参加のためのサポート

④フリーダイヤルによる HIV 陽性者と確認検査待ちの人、そのパートナー、周囲の人のための電話相談

⑤ HIV 陽性者と確認検査待ちの人、そのパートナー、周囲の人のための対面相談

⑥関東地域における当事者支援とぷれいす東京での在日外国人のサポート

・群馬でのサテライト・ミーティングの開催

・中国語、英語を話す陽性者、海外生活に関する小グループミーティングの継続開催

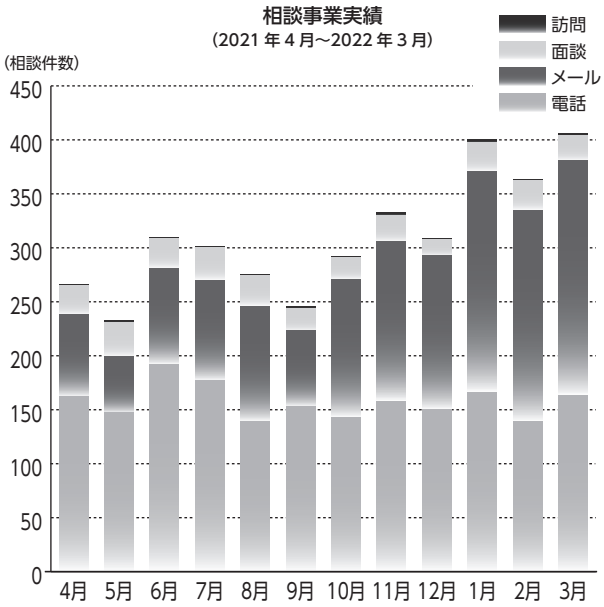
⑦在日外国人への相談サービスの提供

Ⅱ　事業の実績

①～③、⑥に関しては、P29 部門報告 (ネスト) をご参照ください。

④～⑤に関しては、P45 部門報告 (HIV 陽性者と判定保留 / 確認検査待ちの人、その周囲の人への相談サービス) をご参照ください。

●２団体合計の月別相談件数の実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
訪問	1	2	1	1	1	2	1	3	1	2	1	2
面談	27	32	28	30	28	21	20	24	15	27	27	23
メール	76	52	89	93	107	70	128	148	143	205	196	218
電話	162	147	192	177	139	153	143	158	150	166	139	163
合計	266	233	310	301	275	246	292	333	309	400	363	406

※メール相談はぷれいす東京のものは含まない。

⑦在日外国人への相談サービスの提供
(令和３年４月１日～令和４年３月31日)

□外国語相談(再委託)による相談者の合計(のべ件数)：1,729件(ぷれいす東京の数字は含まず)

今年度もCRIATIVOS(P-LATINO)が、電話、メール、LINE、訪問/同行(Zoomを含む)による相談をおこなった。クリアチーボスとぷれいす東京が共同で、LINE上にP－LATINOの公式アカウントとwebを作成、2020年の７月よりそこでLINEをメインにした相談をおこなっている。

主な相談者は、HIV陽性者が1,455件、次いで専門家182件、パートナー５件、その他87件だった。確認検査の結果を待っている間の相談も40件あった。言語によるコミュニケーションの課題をもつ方が多く存在し、そうした方のケアに貢献していると思われた。

□外国語相談(再委託)での相談者の属性(のべ件数)

HIV陽性者	：1,455	(男：1,024、	女：431、	その他：0)
家族	：5	(男：5、	女：0、	その他：0)
専門家	：182	(男：24、	女：158、	その他：0)
その他	：87	(男：28、	女：59、	その他：0)
合計	：1,729	(男：1,081、	女：648、	その他：0)

□外国語相談(再委託)での対象者の属性(のべ件数)

HIV陽性者	：1,509	(男：1,003、	女：506、	その他：0)
確認検査待ち	：40	(男：40、	女：0、	その他：0)
パートナー	：5	(男：5、	女：0、	その他：0)
その他	：175	(男：101、	女：74、	その他：0)
合計	：1,729	(男：1,149、	女：580、	その他：0)

□外国語相談(再委託)でのサービス対象者の国籍／言語(のべ件数)

今年度より、外国語対応がCRIATIVOS(P-LATINO)のみになったこともあり、国籍(対応言語)は、ブラジルが多く、次いで日本、ペルー、スペイン語圏となった。

ブラジル	：	1,303
日本	：	288
ペルー	：	101
スペイン語圏	：	37
合計	：	1,729

□外国語相談(再委託)への相談手段(のべ件数)

相談や支援の手段は、LINEが最も多く、次いで電話、メールとなった。COVID-19の影響をうけ、訪問による支援は少ない状況が続いている。各地の相談者、医療機関等の専門家からの相談があり、居住地は広域に及ぶため、LINEや電話による対応を中心にしている。

電話による相談(N=186)

HIV陽性者	：90	(男：70、	女：20、	その他：0)
専門家	：76	(男：24、	女：52、	その他：0)
その他	：20	(男：12、	女：8、	その他：0)
計	：186	(男：106、	女：80、	その他：0)

メールによる相談(N=16)

HIV陽性者	：9	(男：9、	女：0、	その他：0)
専門家	：3	(男：0、	女：3、	その他：0)
その他	：4	(男：4、	女：0、	その他：0)
計	：16	(男：13、	女：3、	その他：0)

LINEによる相談(N=1,509)

HIV陽性者	：1,338	(男：932、	女：406、	その他：0)
家族	：5	(男：5、	女：0、	その他：0)
専門家	：103	(男：0、	女：103、	その他：0)
その他	：63	(男：12、	女：51、	その他：0)
合計	：1,509	(男：949、	女：560、	その他：0)

訪問／同行(N=18)

HIV陽性者	：18	(男：13、	女：5、	その他：0)
計	：18	(男：13、	女：5、	その他：0)

□外国語相談（再委託）のサービス対象者の年代（N=1,729）

対象者の年代

10代	：	36 （2.1%）
20代	：	177（10.2%）
30代	：	265（15.3%）
40代	：	436（25.2%）
50代	：	430（24.9%）
60代	：	45 （2.6%）
70代以上	：	0 （0.0%）
不明	：	340（19.7%）

□外国語相談(再委託)のサービス対象者の居住地域(N=1,729)

今年度は北陸が一番多く、北陸：605（35.0%）、次いで関東甲信越（東京以外）：493（28.5%）、東京：327（18.9%）となった。それ以外では、東海：172（9.9%）、海外：98（5.7%）、不明：34（2.0%）だった。今年度は海外とのやりとりも比較的あった。

□外国語相談（再委託）による相談対応時間（N=220 LINEを除く）

相談時間は、30分未満：182（82.7%）、30分～59分：8（3.7%）、60～119分：13（5.9%）、120分以上：17（7.7%）となった。

□外国語相談（再委託）の相談内容（N=1,729）

相談内容は、「医療体制・医療との関わり・連絡」555件、「HIV検査や告知に関する相談」228件、「社会保障等行政の手続き」205件、「服薬・副作用に関する相談」166件、「通訳／翻訳」114件、「通訳派遣及び調整」83件、「社会資源活用の情報提供」72件、「心理や精神に関する相談」47件、「医療費や支払いについて」43件、「病気や病態の変化に伴う不安や混乱」41件となった。その他では、「移住支援」21件、「在留資格や法律上の相談」20件、「対人関係上の問題」19件、「パートナーに関する相談」18件、「他のSTIや医療の相談」17件、等となった。

相談手段別でみると、電話相談では、「医療体制・医療との関わり・連絡」69件、「通訳／翻訳」33件、「社会保険等行政の手続き」と「HIV検査や告知に関する相談」がそれぞれ18件等となった。メール相談では、「HIV検査や告知に関する相談」4件等となった。LINEの相談では、「医療体制・医療との関わり・連絡」483件、「HIV検査や告知に関する相談」206件、「社会保障等行政の手続き」187件、「服薬・副作用に関する相談」151件等となった。その他にも、「社会資源活用の情報提供」「通訳／翻訳」「通訳派遣及び調整」など幅広い相談が寄せられていた。訪問／同行では、「通訳／翻訳」が19件、「通訳派遣及び調整」が5件だった。

P-LATINOのLINE上のページ

研究・研修部門では、当事者の視点を生かした独自の研究や、受託研究などのさまざまな調査研究と、HIV/エイズやセクシュアリティ等をテーマにした講師派遣や、研修の企画・運営などを行っています。

担当…生島、牧原、大槻

研 究

ぷれいす東京の研究班

2021年度から新たに、3か年にわたる、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「地域におけるMSMのHIV感染・薬物使用予防策と支援策の研究」がスタートしました。理事の樽井（研究代表者）、代表の生島（研究分担者）を始めとするぷれいす東京スタッフが調査研究を実施しています。

・地域におけるMSMのHIV感染・薬物使用予防策と支援策の研究（研究代表者：樽井 正義）

「HIV陽性者と薬物使用者への支援策と感染・薬物使用予防策の検討」

研究分担者：樽井 正義（ぷれいす東京 理事／慶應義塾大学 名誉教授）

「MSMを対象としたメンタルヘルスと性行動に関するWeb調査」

研究分担者：生島 嗣（ぷれいす東京 代表）

「薬物使用の問題を抱えるHIV陽性者への支援のための精神保健福祉センターとのネットワークモデルの検討」

研究分担者：大木 幸子（杏林大学保健学部 教授）

「MSMを対象とした健康のためのコミュニケーション支援ツールの開発と評価」

研究分担者：野坂 祐子（大阪大学大学院人間科学研究科 准教授）

「ゲイコミュニティにおける性行動および予防啓発に関する動向の把握と効果評価」

研究分担者：塩野 徳史（大阪青山大学健康科学部 准教授）

くわしくは…

上記の厚生労働科学研究班の制作物や報告書などは、下記のWebサイトに掲載しています。「地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト」と「StayHealthy」は2021年度に大幅リニューアルしましたので、ぜひご覧ください。

地域におけるMSMのHIV感染・薬物使用予防策と支援策の研究班

「地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト」
https://www.chiiki-shien.jp/

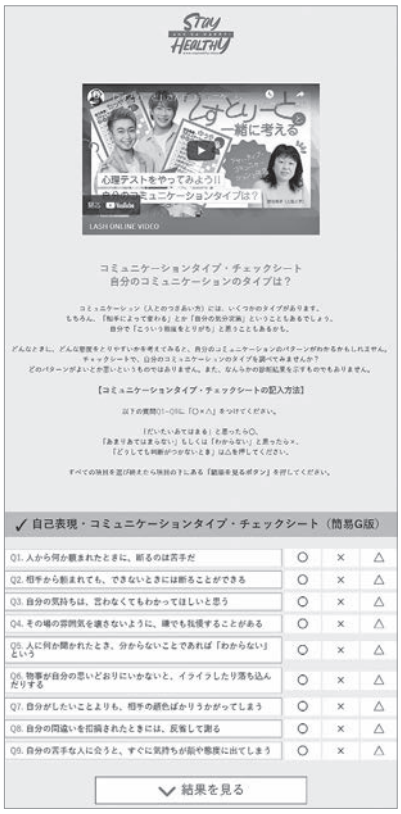
「Love Life and Sexual Health（LASH）」
https://www.lash.online/

「StayHealthy」
https://stayhealthy.tokyo/

地域におけるMSMのHIV感染・薬物使用予防策と支援策の研究

研究代表者：樽井 正義（ぷれいす東京／慶應義塾大学）

研究分担者：生島 嗣（ぷれいす東京）、大木 幸子（杏林大学保健学部）、
野坂 祐子（大阪大学大学院人間科学研究科）、塩野 徳史（大阪青山大学健康科学部）



Webサイト「StayHealthy」コンテンツ

「MSMを対象としたメンタルヘルスと性行動に関するWeb調査」では、その準備のために対象者へのフォーカス・グループ・インタビューを行い、調査参加者への案内を出会い系サイトからSNS、掲示板に拡げること、調査項目の薬物使用にアルコール、市販薬を加えること、相談利用を促す方法を探ることなど、前回を継承するとともに情況の変化に対応する調査の企画で留意すべきことを確認した。

「ゲイコミュニティにおける性行動および予防啓発に関する動向の把握と効果評価」では、3年連続調査の1年目を行い、先行調査に比してコミュニティセンターによる啓発活動の認知度は上がっていること、MSMのコンドームの常用率は20%台に下がっていること、また新型コロナ感染症の影響でHIV抗体検査受検を控えた人が4分の1、性行動を抑えた人が半数ほどいることが示された。

「MSMを対象とした健康のためのコミュニケーション支援ツールの開発と評価」では、トラウマと逆境体験が現在の行動、認知・感情、対人関係に及ぼす影響を考慮した支援（Trauma Informed Care: TIC）をふまえて、MSMを対象にオンラインプログラム「アサーション・トレーニング」と「ストレスマネジメント講座」を実施し、オンラインで自習できるコミュニケーション支援ツールを開発した。

「薬物使用の問題を抱えるHIV陽性者への支援のための精神保健福祉センターとのネットワークモデルの検討」では、MSMあるいはHIV陽性者からの薬物相談を受けた経験のあるセンターの担当者への面接調査により、相談者との継続的な支援関係を築くための方法と、他の支援機関との連携の方策とを整理し、相談継続のために担当者への支援体制が求められることを指摘した。

「HIV陽性者と薬物使用者への支援策と感染・薬物使用予防策の検討」では、文献調査から、薬物使用者は使い続けたい人、減らしたい人、止めたい人にほぼ三分されること、使用者には感染症のリスクが高いことが示された。HIVと薬物使用に関わる支援者への面接調査からは、薬物使用に付随する感染症と感染予防の情報、相談窓口の情報の提供が求められることが確認され、提供する方策が提案された。

ぷれいす東京スタッフが研究分担を行う研究班

ぷれいす東京のスタッフが研究に協力した厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制の整備に資する研究」（研究代表者：水島大輔（国立研究開発法人国立国際医療研究センター））並びに同「職域での健診機会を利用した検査機会拡大のための新たなHIV検査体制の構築に向けた研究」（研究代表者：横幕能行（独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター））は、2021年度に3か年度中2年目にあたる研究を実施しました。研究成果について、くわしくはそれぞれのWebサイトをご覧ください。

日本在住MSMのPrEP（曝露前予防）に関する意識や行動に関する研究究

研究分担者：生島 嗣（ぷれいす東京）

Webサイト「PrEP in Japan」コンテンツ

MSMのPrEPに関する認知は日本でも草の根で広まりつつある中で、PrEPに関する正しい情報発信のプラットフォームを構築し、コミュニティから、適正なPrEP使用を支える体制を整備することが本研究の目的である。今年度は、MSM当事者のPrEPの使用状況等を調査するとともに、コミュニティからの行政・医療機関への意見・要望を汲み上げることとした。

2021年2月にMSMを対象にしたWebアンケート調査を実施し、7,850件の有効回答を得た。PrEP使用経験者は全体の8.5%で、東京を中心とした関東ブロック在住で70.2%を占めたが、全国各地に分布していた。使用者の約8割がインターネットでPrEPの薬剤を購入していたと回答したが、そのうち、医師の診察を受けているのは49.7%であった。今後の使用意向については、PrEPが認可されたら使用したいと回答した人が68.5%であった。

2018年10月の調査では2.2%であったPrEPの使用経験者は8.5%に増加し、Web購入者が大半を占めていたことから、今後は検査や見守りなど、クリニックをベースにしたサポート体制の構築が急務であると推察された。

「PrEP in JAPAN」
HIV感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制の整備に資する研究班
https://prep.ptokyo.org/

職場におけるHIV検査実施に必要とされる配慮と環境に関する研究

研究分担者：生島 嗣（ぷれいす東京）

HIV郵送検査キット使用体験ムービー

本研究班では2017年より職場における啓発・検査プログラムを実施し、HIV検査機会やHIV/エイズに関する情報の提供を通じ、HIVステータスにかかわらず働きやすい職場と社会環境づくりを提言している。

今年度は、職域検査を安全に実施することを目的に、職場の人事等担当者、労働者それぞれに向けた動画コンテンツや、相談窓口の広報資材を制作するとともに、職域検査に関する諸外国のガイドライン等を収集して情報を整理した。結果として、本研究班の啓発・検査プログラムにおける配慮事項は国際機関等が重点化するものと一致していることが確認された。

今後も、職場における検査実施に必要とされる配慮と環境を推進する取り組みを、引き続き行っていくこととする。

「BRTA JAPAN」
職域での健診機会を利用した検査機会拡大のための新たなHIV検査体制の構築に向けた研究班
https://brta.jp/

ぷれいす東京スタッフによる調査研究で、2021年度中に発表（共同発表を含む）を行った学会は以下の通りです。

学会発表

・第1回 Fast-Track Cities Workshop Japan　（2021年7月10日）
「国内MSMのPrEP利用の拡大と課題～出会い系アプリ利用者を対象にした調査から」
発表者：生島 嗣

・第117回日本精神神経学会学術総会　（2021年9月19日～9月31日）
「性的な少数者と薬物使用～部分的にだけれども見えているその背景」
発表者：生島 嗣

・第35回日本エイズ学会学術集会・総会　（2021年11月21日～11月23日）
「COVID-19のHIV陽性者向け相談サービスへの影響」
発表者：牧原 信也

「薬物使用者に対するHIV予防戦略とエイズ予防指針における課題」
発表者：山口 正純

「郵送HIV検査実施のためのwebサイトの開発と北陸における実証研究
～自治体と連携した検査モデルの構築と効果分析に関する研究」
発表者：生島 嗣

「出会い系アプリケーションを利用するMSMを対象としたPrEPに関する
大規模インターネット調査から（第一報）」
発表者：生島 嗣

「出会い系アプリケーションを利用するMSMを対象としたPrEPに関する
大規模インターネット調査から～最近2年間のPrEPの利用実態の変化（第二報）」
発表者：山口 正純

「HIV陽性者や周囲の人への相談事業における、COVID-19の影響」
発表者：牧原 信也

講師派遣・研修

ぷれいす東京では、HIV/エイズの一般知識、HIV陽性者支援、性教育やセクシュアリティ、人権などをテーマに、学校や企業、専門家の集まりなどへ向けた講師派遣や研修の企画・運営を行っています。講師派遣では、HIV陽性者の支援経験が豊富な相談員やセクシュアリティの専門家、性教育の専門家などが出講しています。企業や教育機関、保健所を含む行政機関、医療機関、国際協力団体などの研修を受託し、独自の研修企画の立案も行っています。

くわしくは…

講師派遣や研修をご希望の場合は、ぷれいす東京 Web サイト「講師派遣・研修の依頼」(https://www.ptokyo.org/know/lecturers) からご連絡ください。

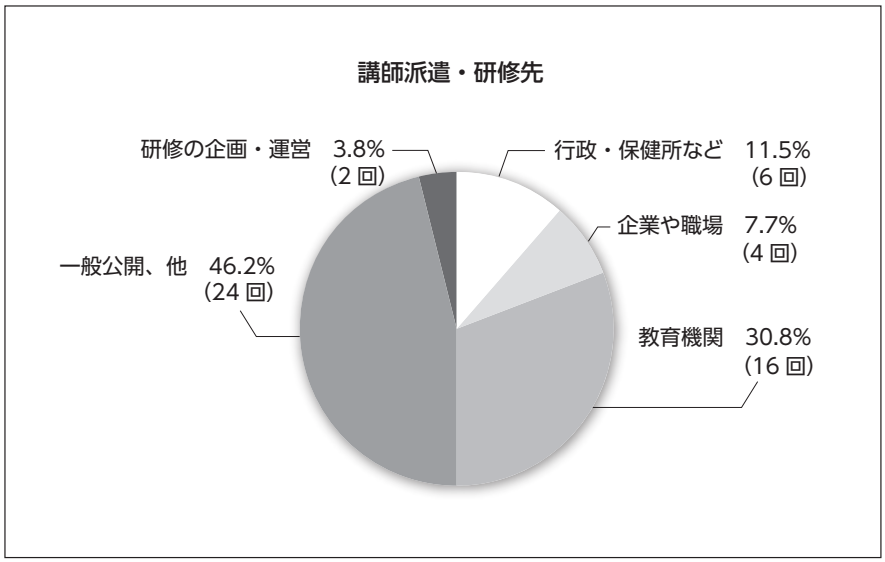
2021年度の講師派遣・研修実績は以下の通りです。

月	日	担当	内容	参加者数 (人)				
				行政・保健所など	企業や職場	教育機関	一般公開、他	研修の企画・運営
4月	18日 (日)	生島	東京レインボープライド「LGBTQ の今を知る 15 選『LGBTQ と感染症』」(収録)				*	
5月	1日 (土)	生島	ReBit「障がいがあるLGBTの『自分らしく働く』を考える」(オンライン)				*	
	4日 (火・祝)	生島	カラフル @ はーと「PrEP 17 から学ぶこと～2017 年制作の映画をいま改めて鑑賞して」(オンライン)				*	
	23日 (日)	生島	"人間と性" 教育研究協議会「性の基礎講座」(オンライン)				120	
6月	5日 (土)	生島	学習院大学 (オンライン)			235		
	12日 (土)	生島	学習院大学 (オンライン)			176		
	13日 (日)	生島	カトリック医師会 (オンライン)		12			
7月	2日 (金)	加藤	国際医療福祉大学			90		
	4日 (日)	生島	「ラッシュ (RUSH) 裁判オンライン報告会」(オンライン)				30	
	6日 (火)	生島	東京都人権啓発センター (収録)				*	
	14日 (水)	加藤	国立東京工業高等専門学校			200		
8月	1日 (日)	生島	栃木県公認心理師協会 (オンライン)		20			
	8日 (日・祝)	生島・大槻	「LGBTQ+ のためのメンタルヘルス支援者交流会」(オンライン)				43	
	27日 (金)	生島	青年海外協力隊エイズ対策技術補完研修 (収録)				*	
9月	12日 (日)	生島	IT' S A SIN PODCAST #5 (収録)				*	
	23日 (木・祝)	大槻	「DV 被害者支援とトランスジェンダー」(オンライン)				46	
	25日 (土)	大槻	京都性暴力被害者ワンストップ相談支援センター京都 SARA 支援員養成講座 (オンライン)		19			
	27日 (月)	生島	厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生課 第3回旅館業法の見直しに係る検討会	20				
	28日 (火)	生島	内閣府 第 7 回孤独・孤立に関するフォーラム	40				
	30日 (木)	生島	REING GENDER CLUB「HIV の常識を更新しよう」(オンライン)				*	
10月	4日 (月)	生島	東京都保健所職員向け HIV 感染症基礎講座研修 (オンライン)	45				
	9日 (土)	生島	「八方不美人と学ぶ ～地方と LGBTQ+ と HIV の最新事情～」				35	
	26日 (火)	生島	女子栄養大学			4		
	31日 (日)	牧原・加藤	青年海外協力隊エイズ対策技術補完研修 (オンライン)					4

※「*」は、参加者数のデータがないもの。

月	日	担当	内容	参加者数（人）				
				行政・保健所など	企業や職場	教育機関	一般公開、他	研修の企画・運営
11月	5日（金）	加藤	厚生労働省「提案方研修・広報・制度」企画「患者の声から学ぶ」勉強会第3回	57				
	9日（火）	加藤	高知県立大学（オンライン）			6		
	10日（水）	加藤	アジア・コミュニティ・マスタークラス（オンライン）				30	
	17日（水）	加藤	東京女子大学（収録）			150		
	27日（土）	生島	MR GAY JAPAN「HIV予防法のPEP、PrEP使う？使わない？」（オンライン）				*	
	28日（日）	生島・大槻	「LGBTQ+のセクシュアルヘルス・トーク＆勉強会 Vol. 1『トランスジェンダーと性の健康』」（オンライン）				112	
	29日（月）	生島	東北ブロック「HIV検査担当者向け研修会」					8
	29日（月）	生島	community center ZEL「U=U, PrEP勉強会」				12	
12月	2日（木）	生島・加藤	厚生労働省「患者の声から学ぶ」勉強会	20				
	3日（金）	加藤	横浜市立大学附属病院（オンライン）		21			
	3日（金）	生島	東京都「働く世代に多いHIV/AIDS～誰もが働きやすい職場とは～」（オンライン）				30	
	6日（月）	生島	『IT'S A SIN　哀しみの天使たち』 第一話無料上映イベント＠シネマート新宿				70	
	10日（金）	生島	「PrEPの処方医、ハード系ポルノ男優と語る。」				40	
	14日（火）	生島	岡山県エイズ対策研修会（オンライン）	80				
	15日（水）	大槻	埼玉県立大学（オンライン）			30		
	15日（水）	生島	「マンガ『テイキング・ターンズ　HIV/エイズケア371病棟の物語』発売記念～AIDS/HIVをめぐる40年～」（オンライン）				40	
	20日（月）	加藤	東京都立忍岡高等学校			234		
	24日（金）	加藤	上野学園高等学校			200		
1月	8日（土）	生島	キリストの風集会				20	
	12日（水）	加藤	上野学園中学校			50		
	21日（金）	加藤	群馬大学（オンライン）			103		
	31日（月）	生島	みんなのSDGsオンラインセミナー「取り残されやすい人々への新型コロナウイルス感染症（COVID-19）影響：各種実地調査から見える実態」（オンライン）				80	
2月	9日（水）	加藤	港区立お台場学園 港陽中学校			38		
	19日（土）	加藤	城西国際大学看護学部（オンライン）			22		
	27日（日）	生島	カラフル＠はーと「医療者向けPrEPオンライン学習会『HIV/AIDSの最新情報―ハイリスク層を診察するにあたって』」（オンライン）				45	
3月	6日（日）	加藤	カラフル＠はーと「ピアサポートミーティング～仲間と出会い、支え合う～LGBTQコミュニティでの実践」（オンライン）				60	
	10日（木）	加藤	台東区立駒形中学校			119		
	15日（火）	加藤	港区立六本木中学校			80		
			参加者数合計（人）	262	72	1,737	813	12
			実施回数合計（回）	6	4	16	24	2

※「*」は、参加者数のデータがないもの。



2021 年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響が続いたものの、オンライン形式の開催が定着したこともあり、講師派遣・研修等の依頼件数は 2020 年度の 36 件から 52 件に増加しました。コロナ禍前の 2019 年度（53 件）の水準に戻っています。

相談員派遣

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 検査と医療へのアクセス向上に資する多言語対応モデル構築に関する研究」（研究代表者：北島勉（杏林大学））の一環として、在留外国人を対象とした HIV 検査会に各回 2 名の相談員を派遣しました。

・2021 年 11 月 14 日（日）… 検査 5 件、相談 0 名
・2022 年　2 月 11 日（金・祝）… 検査 8 件、相談 5 名

（文責：大槻）

寄付のお願い

ぷれいす東京は HIV/ エイズとともに生きる人たちが自分らしく生きられるように、多様な活動を展開しています。
私たちの活動を応援してください。

▼ 寄付で応援する

ぷれいす東京を財政面から応援してください。匿名でも寄付いただけます。

単回の寄付
クレジット決済、郵便振替、銀行振込、現金などでいつでもご寄付いただけます。

毎月の寄付（クレジット決済）
毎月 1,000 円、2,000 円、3,000 円、5,000 円、10,000 円など、定期引落の金額を選べます。

定期引落

送金方法

・クレジットカード　ぷれいす東京 Web サイトから
https://ptokyo.org/support/donation#credit

・ゆうちょ銀行振替口座　00160-3-574075　「特定非営利活動法人ぷれいす東京」
※送金される際、通信欄に寄付か会費納入かご一筆ください。専用の振替用紙もあります。

・三井住友銀行　高田馬場支店　普通預金　2041174　「特定非営利活動法人ぷれいす東京」
※銀行振込の場合、名前・住所などのご連絡をいただかないと、
お礼や寄付金控除の案内等ができません。
ご希望の場合はメールフォームをご利用ください。

・事務所で寄付することもできます。事前にご連絡ください。（TEL:03-3361-8964）

クレジットカードによる寄付

メールフォーム

▼ 賛助会員になって応援する

毎年継続して寄付をすることでぷれいす東京を支えていただく会員です。
合わせて認定 NPO サポーターになることもできます。
年会費（4 月～翌年 3 月）
個人賛助会員（一口）1 万円　　団体賛助会員（一口）2 万円
詳しくは、https://ptokyo.org/support/supportingmembers

賛助会員

※ 寄付 / 賛助会費振込の際はぜひ「認定 NPO サポーター」に！

2019 年 12 月 3 日に認定 NPO 法人になりました。
認定 NPO 法人への寄付は、寄付額に応じた所得税の税額控除が受けられます。賛助会費も控除対象です。法人が寄付した場合は、損金算入限度額の枠が拡大されます。
また、遺産を相続し、そこから寄付をした金額は非課税になります。

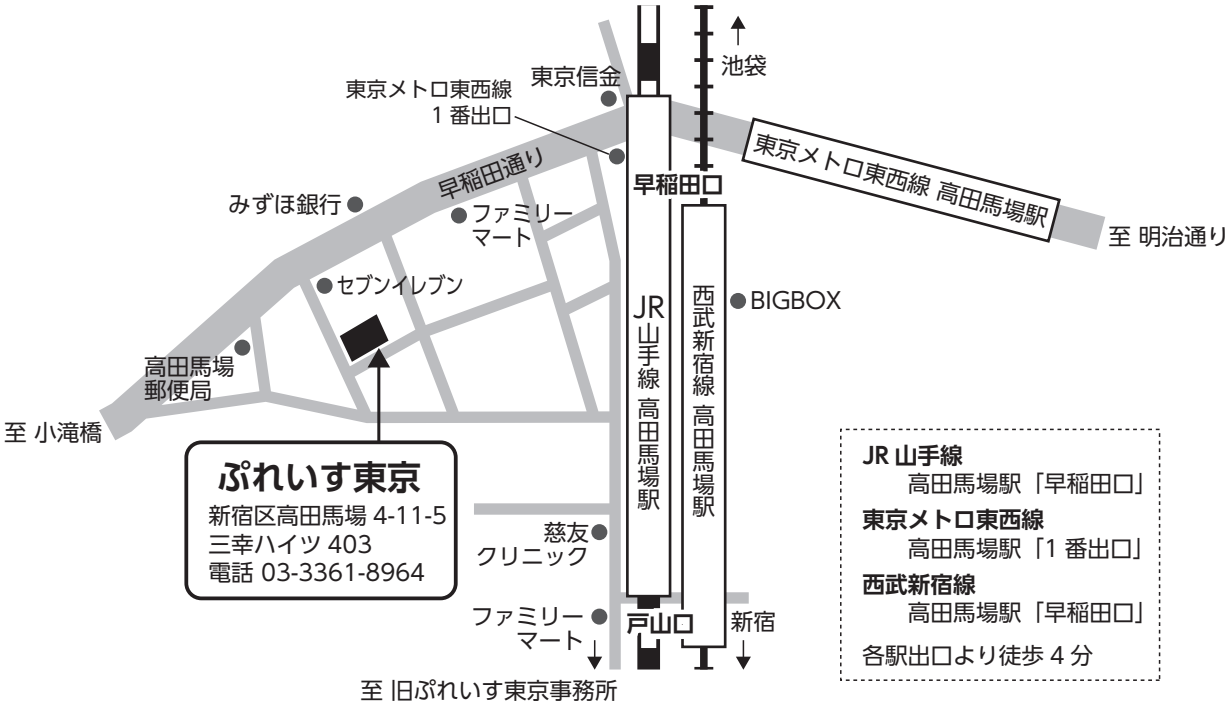
認定 NPO 法人になることで寄付が増え、団体の安定に繋がることを期待しています。認定 NPO 法人を継続するためには、年間（4 月～翌年 3 月）3,000 円以上の寄付者が毎年 100 人以上必要です。
ご協力いただける方は、寄付や賛助会費を振り込まれる際、「認定 NPO サポーター希望」「名前 / 住所（自宅）（団体の場合は、団体名と所在地）」をお知らせください。
詳しくは、https://ptokyo.org/support/authorizednpo

認定 NPO サポーター

▼ チャリボンで寄付する

https://www.charibon.jp/partner/ptyo/
引越しなどで不要になった本・CD・DVD などを「チャリボン」に送ると、
その売りあげ金がぷれいす東京に寄付されます。
読み終わった本などを処分しようと思っているみなさま、どうぞご協力をお願いします。

チャリボンで寄付



ぷれいす東京　2021 年度 年間活動報告書

2022 年 6 月 18 日発行

発行　特定非営利活動法人　ぷれいす東京
Positive Living And Community Empowerment TOKYO
〒 169-0075　東京都新宿区高田馬場 4-11-5　三幸ハイツ 403
TEL：03-3361-8964　FAX：03-3361-8835　E-mail：office@ptokyo.org
ゆうちょ銀行振替口座：00160-3-574075「特定非営利活動法人　ぷれいす東京」
URL：https://www.ptokyo.org/
Facebook：https://www.facebook.com/PLACETOKYO
Twitter：@placetokyo（https://twitter.com/placetokyo）
印刷　株式会社翔美

認定NPO法人 ぷれいす東京
あなたのアクションが誰かの力に！
https://ptokyo.org/weare/